

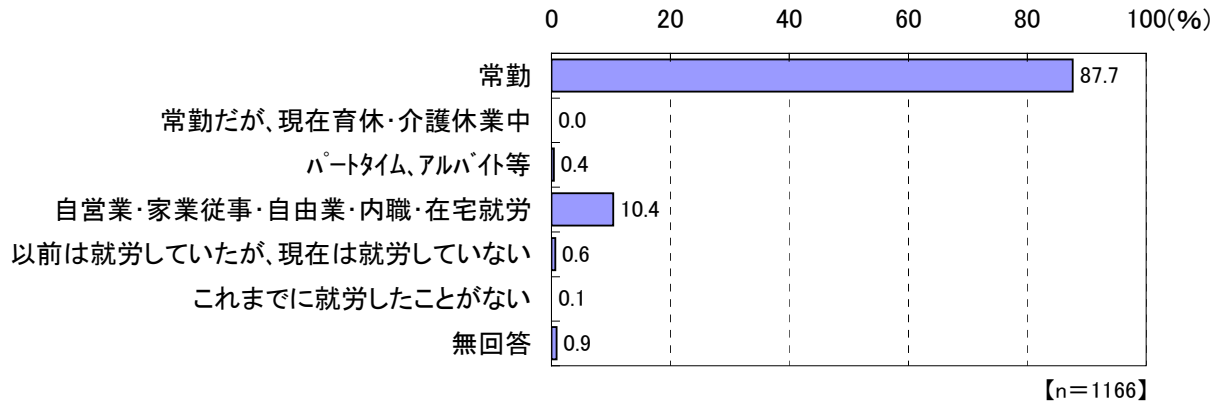
Ⅲ. 調査結果の分析

第 1 部 就学前兒童

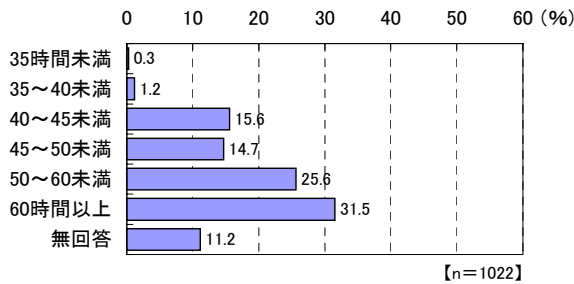
第1章 父親・母親の就労状況、出産時の離職状況等

1.1 父親・母親の就労状況

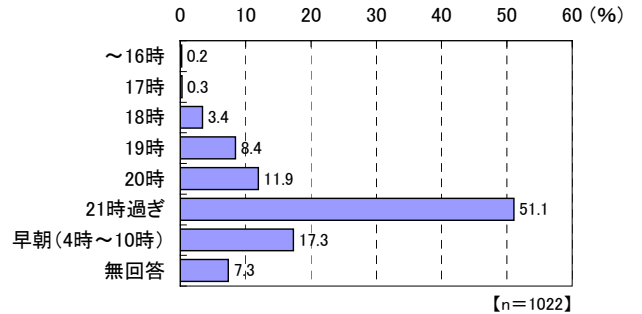
(1) 父親の就労状況 (F7-1(1))



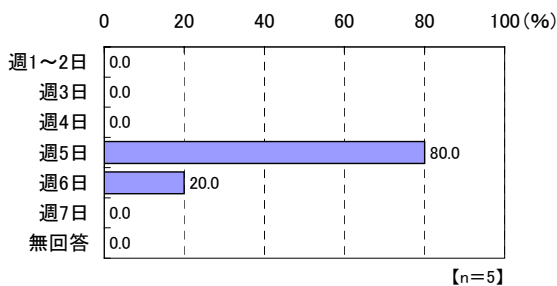
【常勤】 ①1週間の平均就労時間



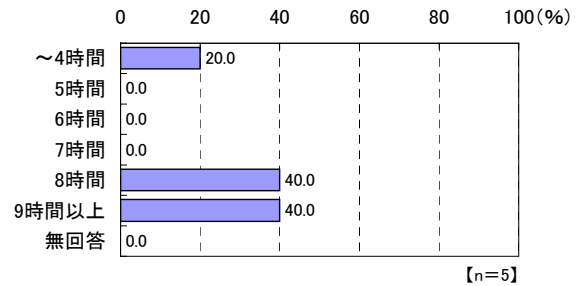
②平均帰宅時間



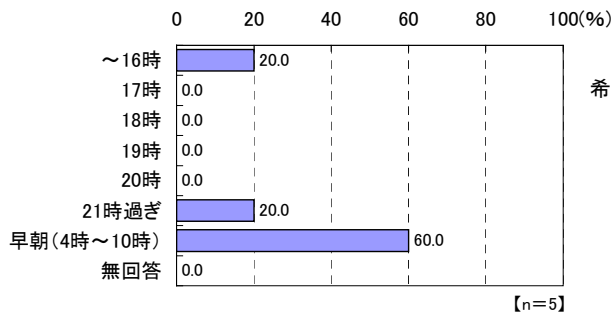
【パート等】 ①1週間の就労日数



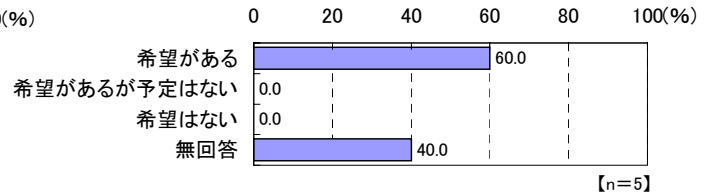
②1日の就労時間



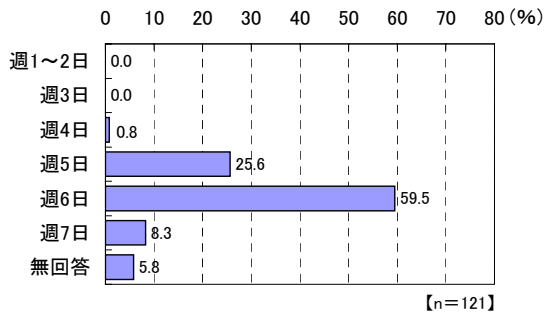
③平均帰宅時間



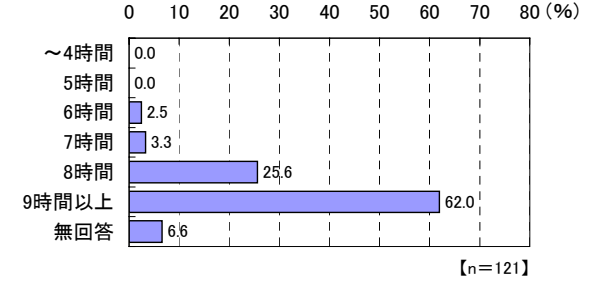
④フルタイムへの転換希望の有無



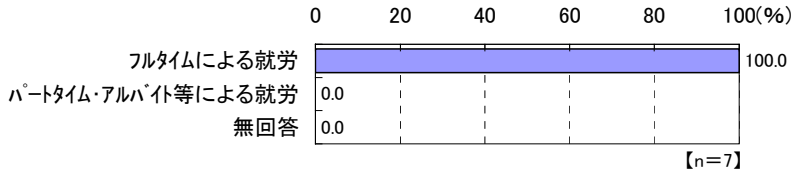
【自営業等】 ①1週間の就労日数



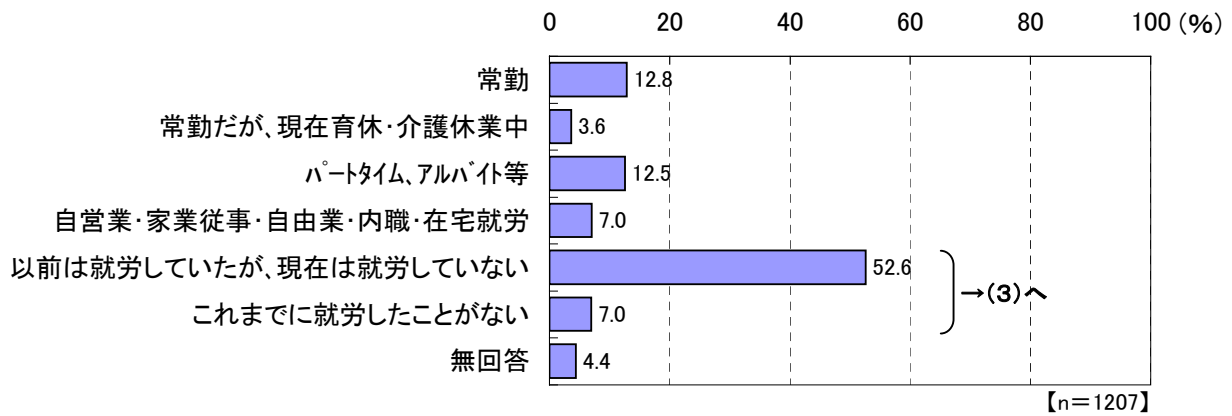
②1日の就労時間(F7-1(1)3)



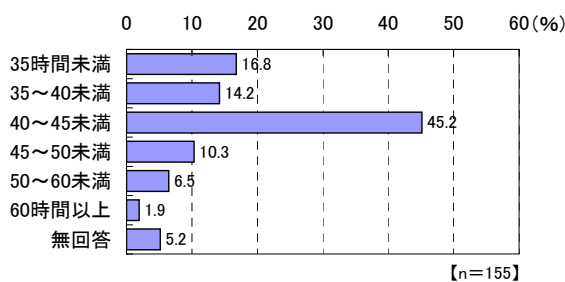
【現在は就労していない】 以前の働き方



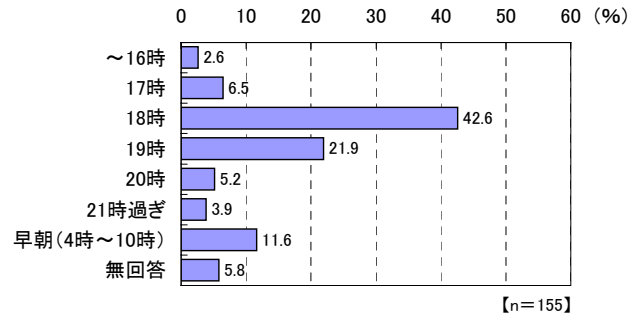
(2) 母親の就労状況 (F7-1(2))



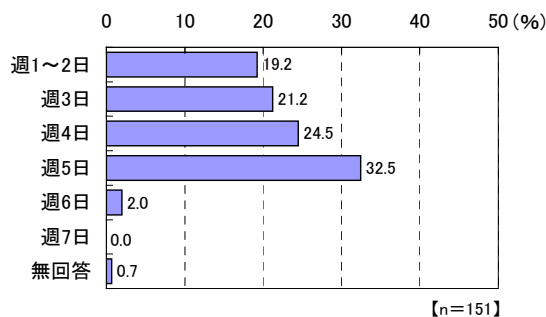
【常勤】 ①1週間の平均就労時間



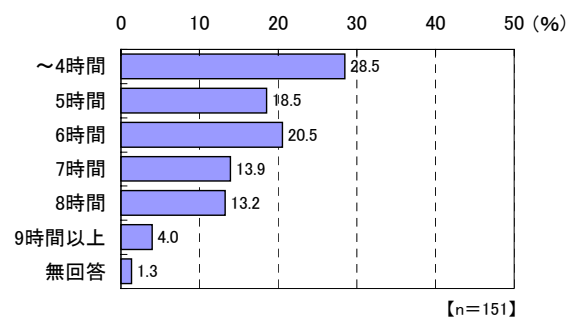
②平均帰宅時間



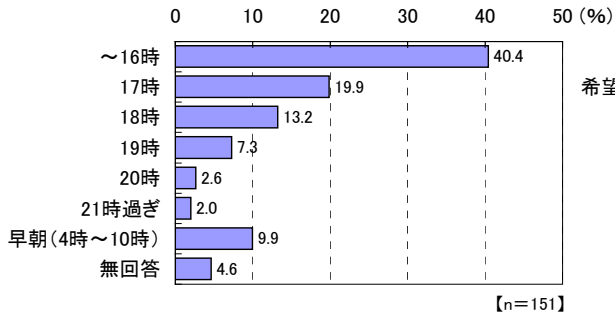
【パート等】 ①1週間の就労日数



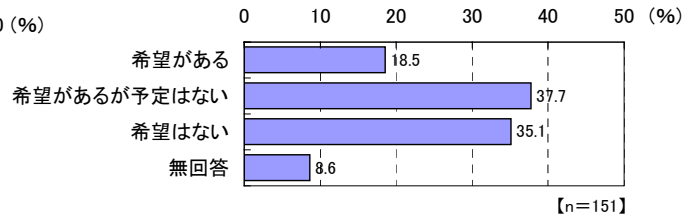
②1日の就労時間



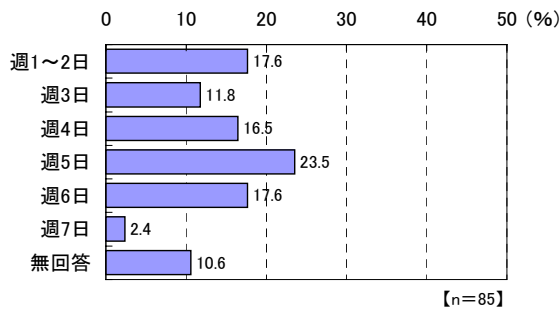
③平均帰宅時間



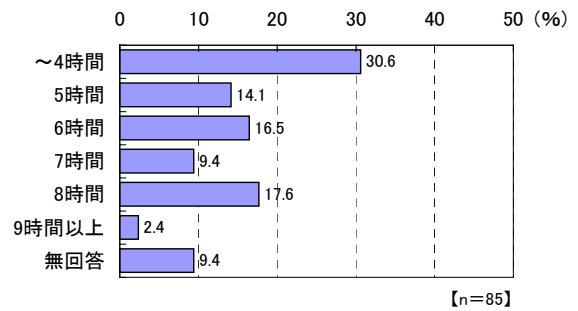
④フルタイムへの転換希望有無



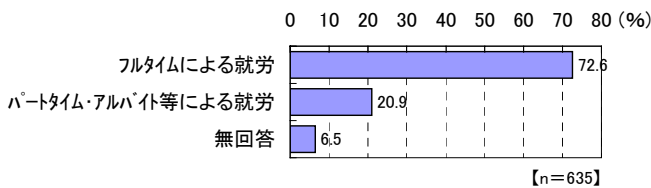
【自営業等】①1週間の就労日数



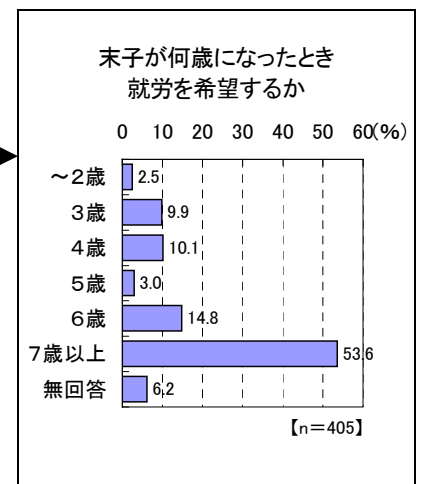
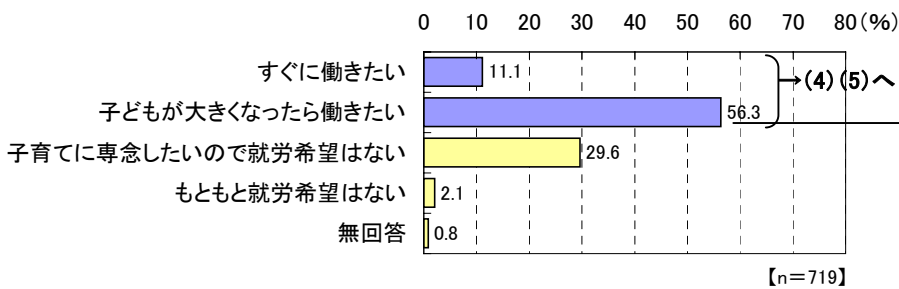
②1日の就労時間



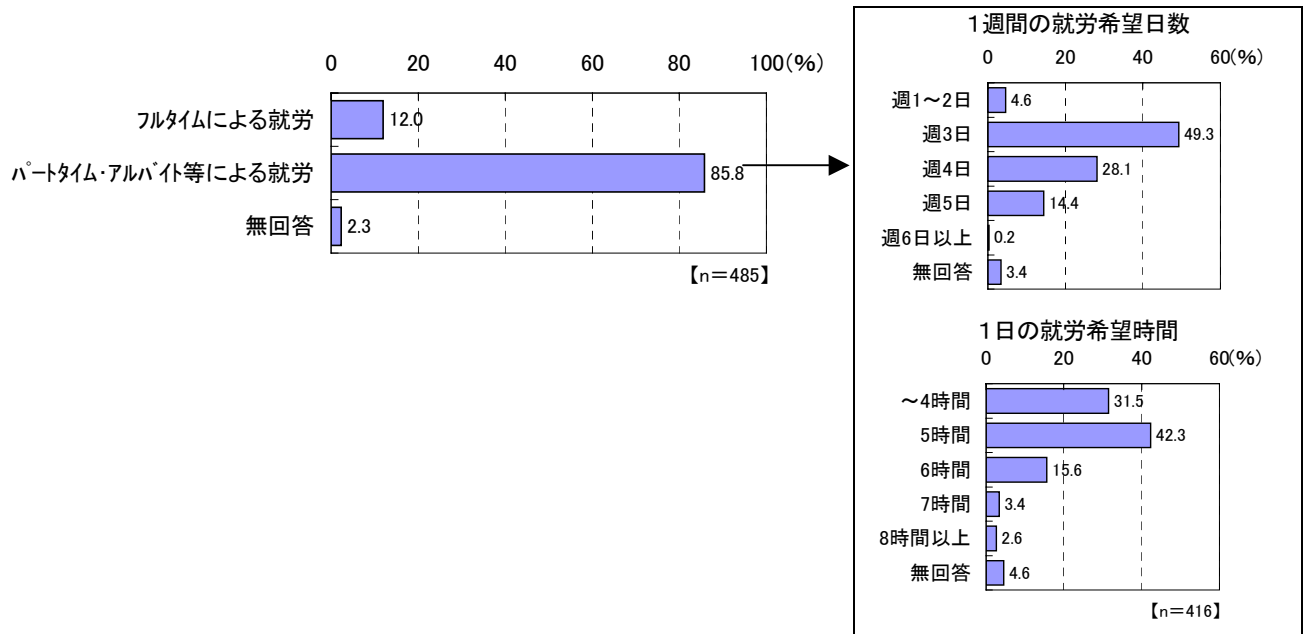
【現在は就労していない】①以前の働き方



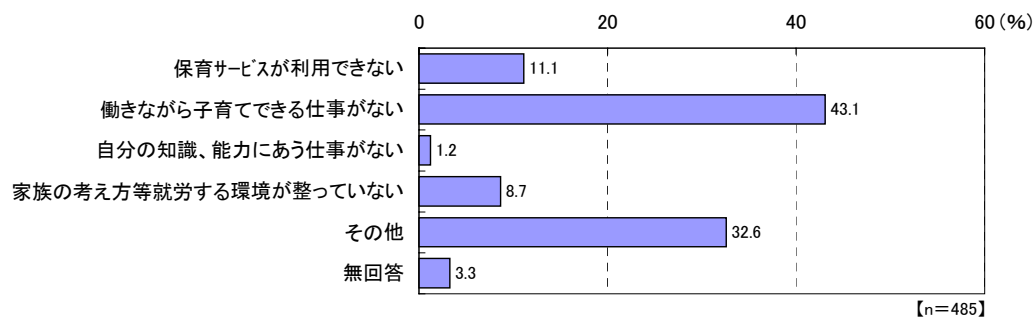
(3) 母親の就労希望の有無 (F7-2(ア))



(4) 母親の働き方の希望 (F7-2(イ))

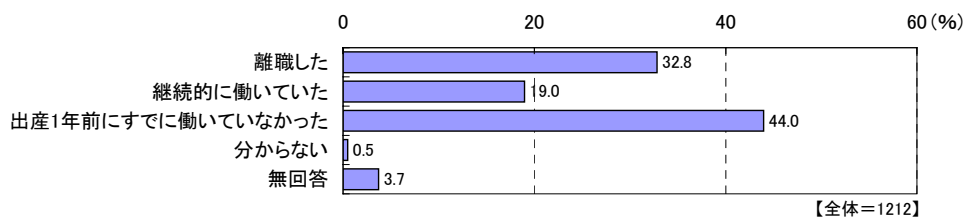


(5) 就労希望がありながら働いていない理由 (F7-3)

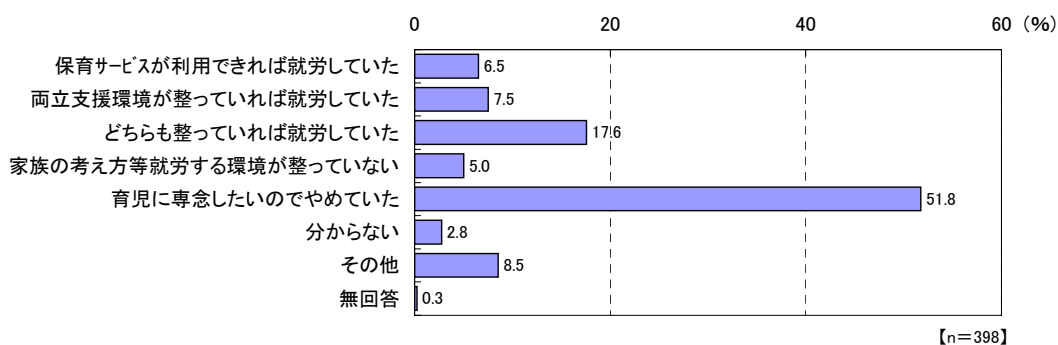


1.2 母親の出産による離職状況

(1) 子どもを出産前後に母親は離職したか (F8-1)

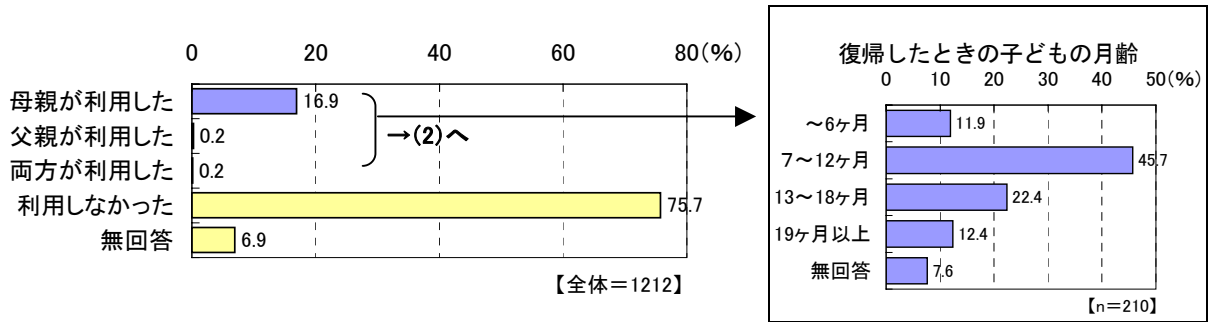


(2) 離職を選んだ母親の考え (F8-2)

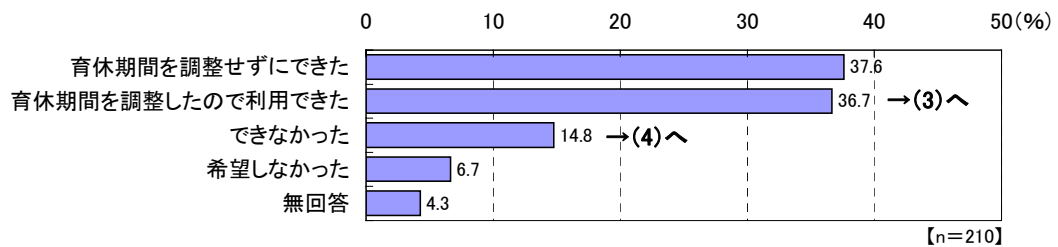


1.3 父親・母親の育児休業制度の利用状況

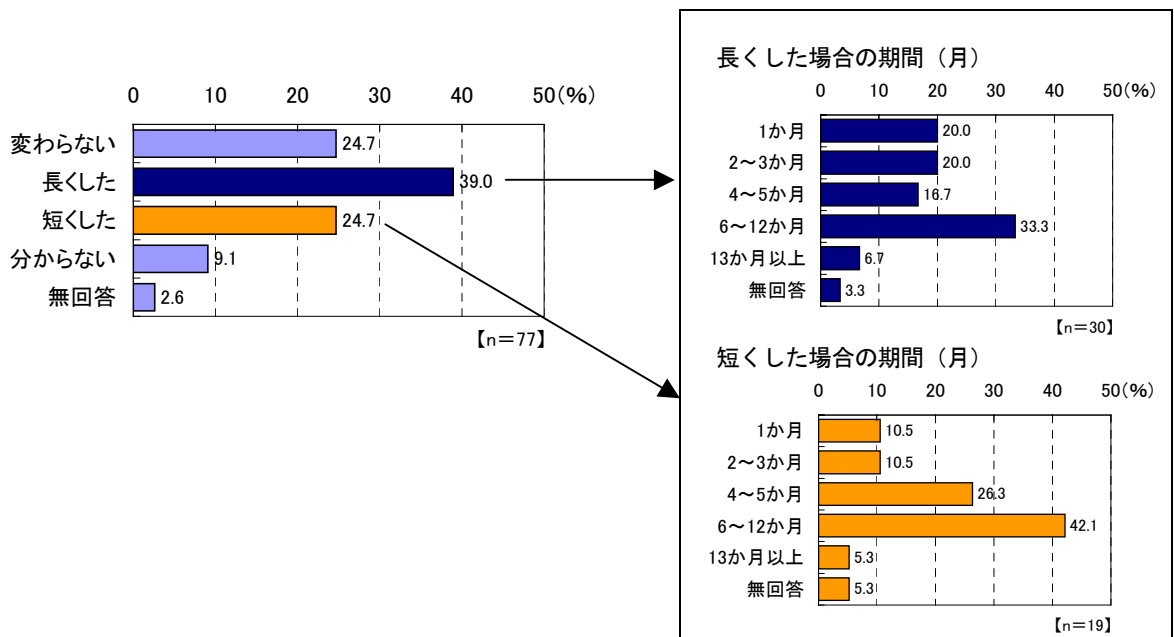
(1) 育児休業制度の利用の有無 (F 9-1)



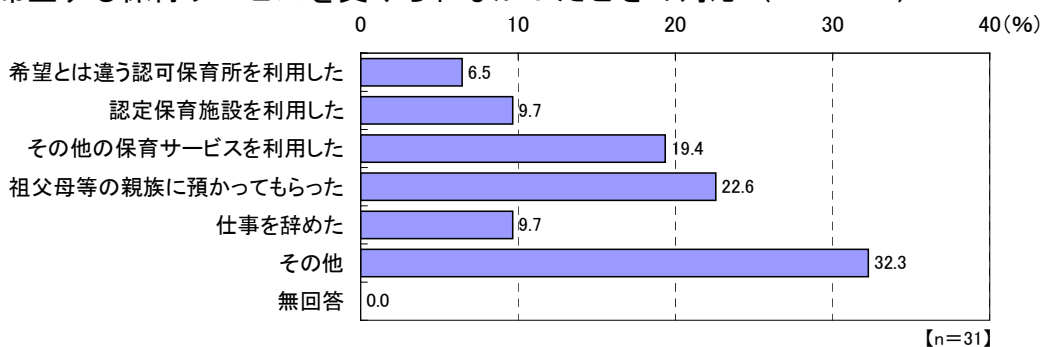
(2) 育児休業あけの保育サービスの利用 (F 9-2)



(3) 保育サービスを利用できた場合の育児休業期間の変化 (F 9-3)

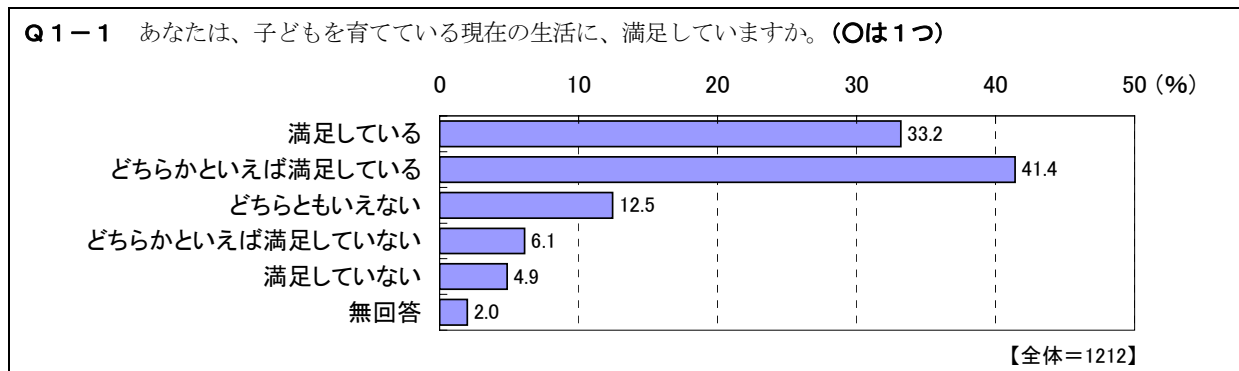


(4) 希望する保育サービスを受けられなかったときの対応 (F 9-4)



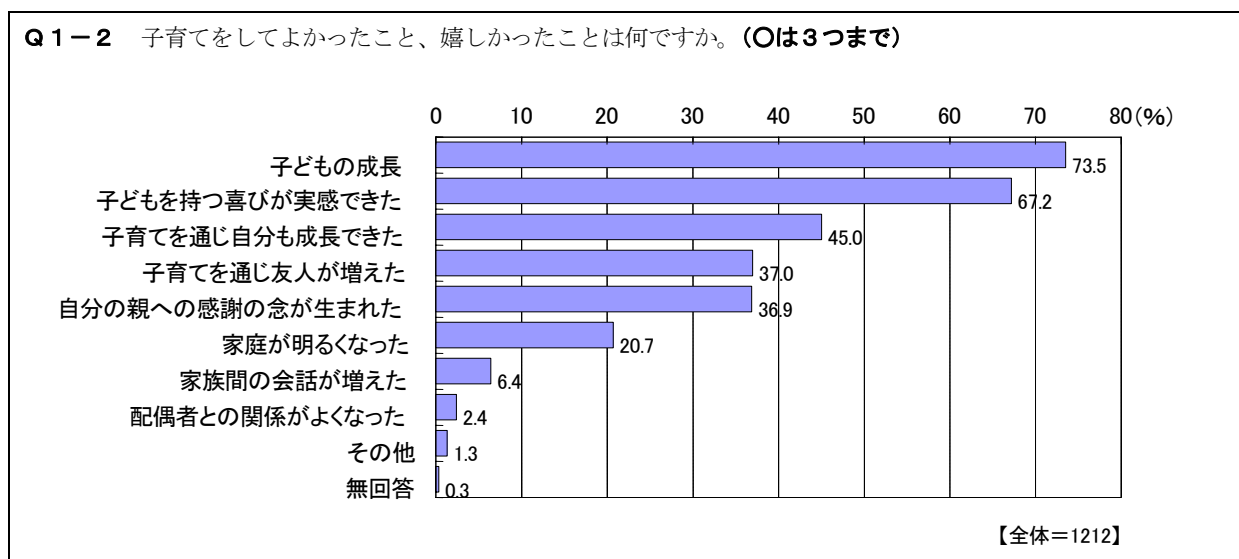
第2章 子育てについての考え等

2.1 子どもを育てている生活の満足度



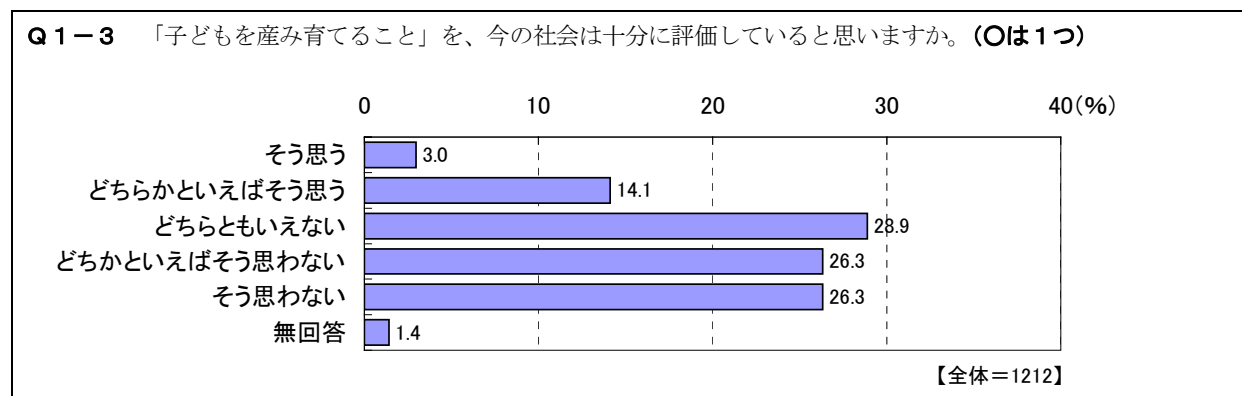
子どもを育てている現在の生活に対して、「どちらかといえば満足している」(41.4%)が最も多く、これに次ぐ「満足している」(33.2%)を合わせた<満足度>は74.6%と全体のほぼ3/4を占めている。一方、「どちらかといえば満足していない」(6.1%)と「満足していない」(4.9%)を合わせた<不満足度>は11.0%となっている。

2.2 子育てをしておよかったこと、嬉しかったこと



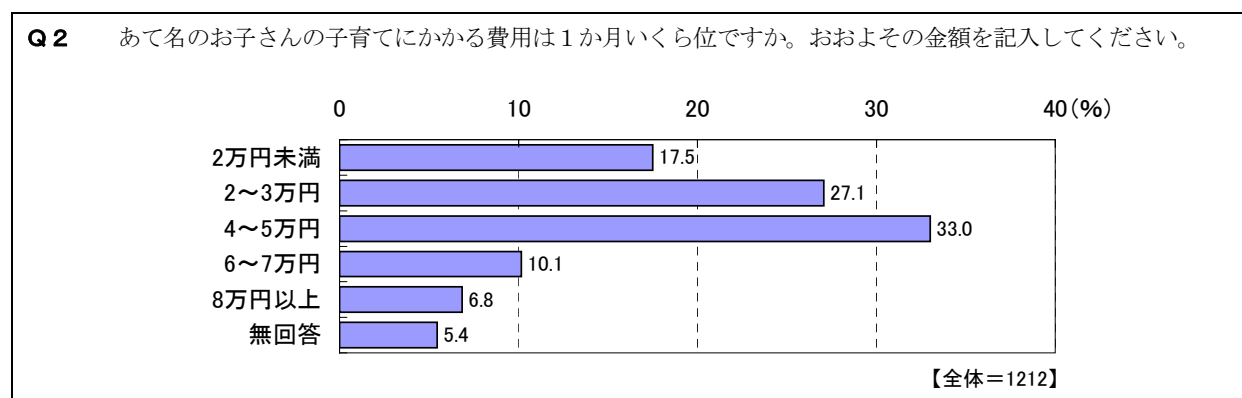
子育てをしておよかったこと、嬉しかったことは、「子どもの成長」(73.5%)が最も多く、次いで「子どもを持つ喜びが実感できた」(67.2%)、「子育てを通じ自分も成長できた」(45.0%)と続いている。

2.3 「子どもを産み育てること」を社会は評価しているか



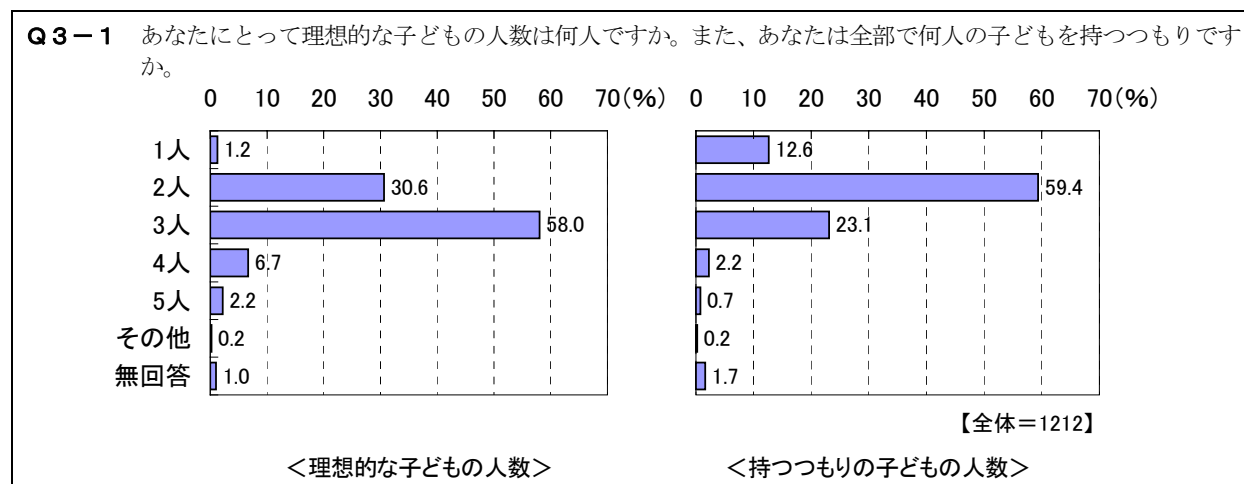
「子どもを産み育てること」を今の社会が十分に評価しているかについて、「どちらともいえない」(28.9%)が最も多く、次いで「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」(ともに26.3%)の、<評価しているとは思わない>が52.6%と半数を超える結果となった。「そう思う」(3.0%)は低い割合であった。

2.4 子育てにかかる1か月の費用



子育てにかかる1か月の費用は、「4~5万円」(33.0%)が最も多く、次いで「2~3万円」(27.1%)、「2万円未満」(17.5%)の順となった。

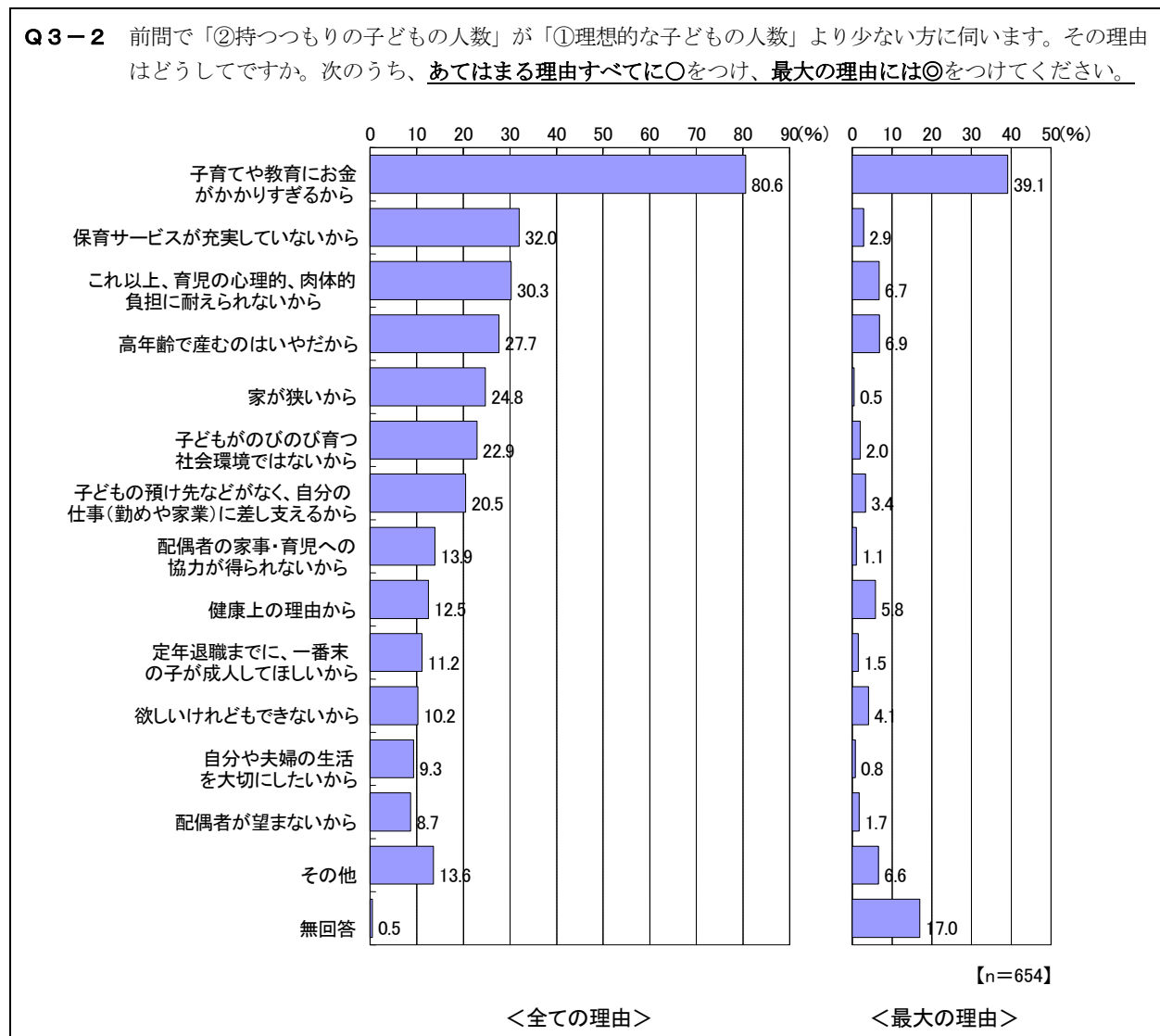
2.5 理想的な子どもの人数と持つつもりの子どもの人数



理想的な子どもの人数は、「3人」(58.0%)が最も多く、次いで「2人」(30.6%)、「4人」(6.7%)の順となっている。一方、持つつもりの子どもの人数は、「2人」(59.4%)、「3人」(23.1%)、「1人」(12.6%)の順となっている。

2.6 理想より持つつもりの子どもの人数が少ない理由

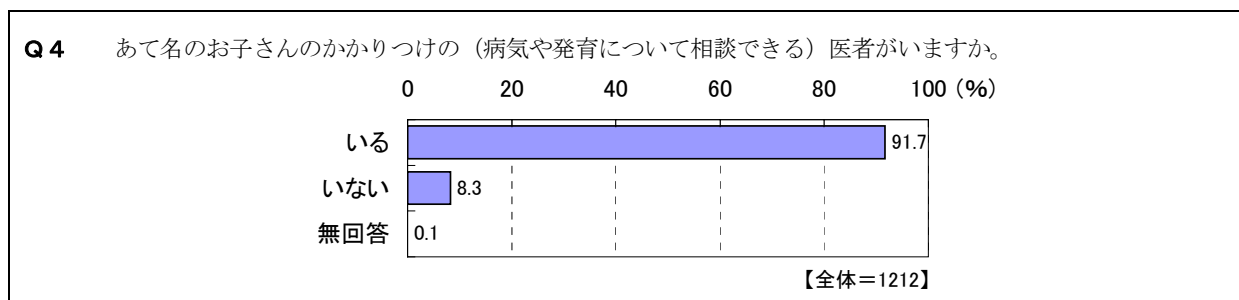
Q3-2 前問で「②持つつもりの子どもの人数」が「①理想的な子どもの人数」より少ない方に伺います。その理由は
 どうしてですか。次のうち、あてはまる理由すべてに○をつけ、最大の理由には◎をつけてください。



「持つつもりの子どもの人数」が「理想的な子どもの人数」より少ない回答者（該当 654 人）の、その理由としては、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」をあげた回答者の割合が 80.6%で最も多く、さらに「最大の理由」としてあげた回答者の割合も 39.1%と最も多い結果となった。その他の理由としては、「保育サービスが充実していないから」（32.0%）、「育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」（30.3%）、「高年齢で産むのがいやだから」（27.7%）と続いている。

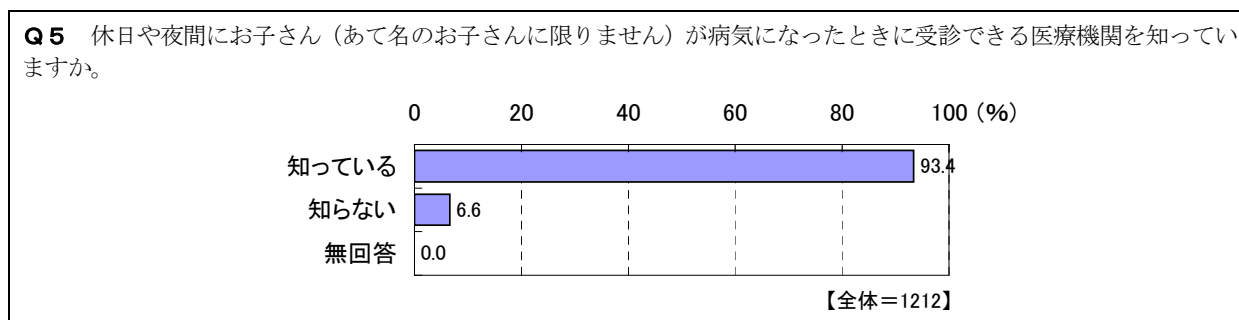
第3章 日常の育児に関して

3.1 子どものかかりつけ医の有無



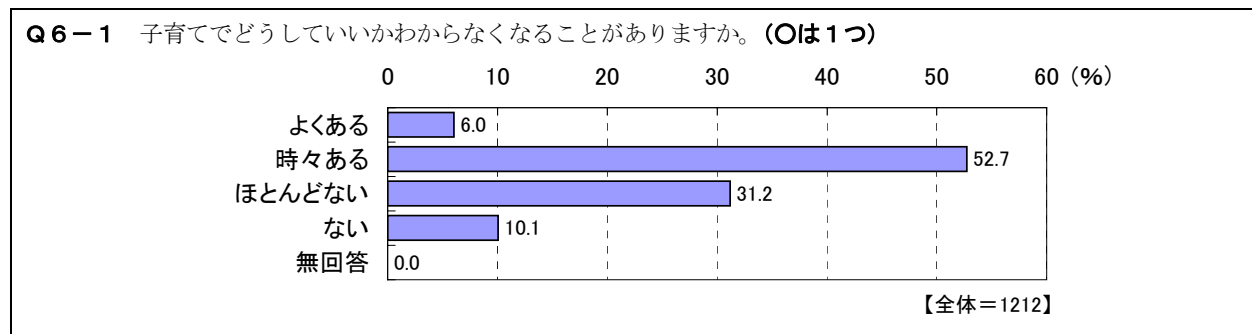
子どものかかりつけ医が「いる」(91.7%)が9割以上の大きな割合を占めた。

3.2 休日や夜間の医療機関の認知度



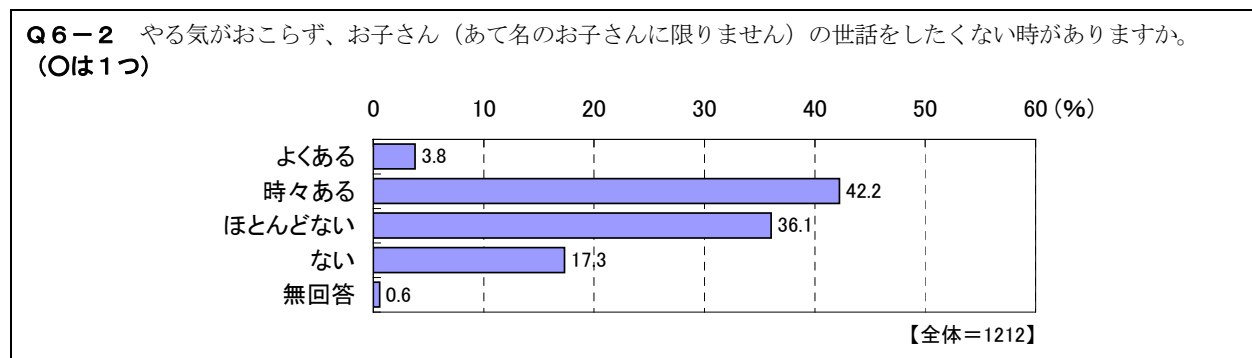
休日・夜間において受診ができる医療機関について「知っている」(93.4%)と、かかりつけ医の有無と同様に9割以上の大きな割合を占めた。

3.3 子育てでわからなくなることがあるか



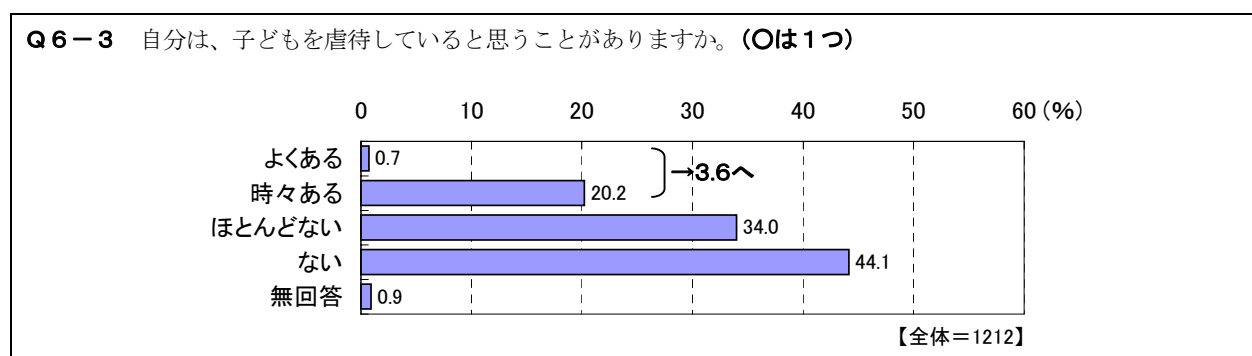
子育てでどうしていいかわからなくなることが、「時々ある」(52.7%)が最も多い結果となり、以下、「ほとんどない」(31.2%)、「ない」(10.1%)、「よくある」(6.0%)の順となった。

3.4 子どもの世話をしたくないときがあるか



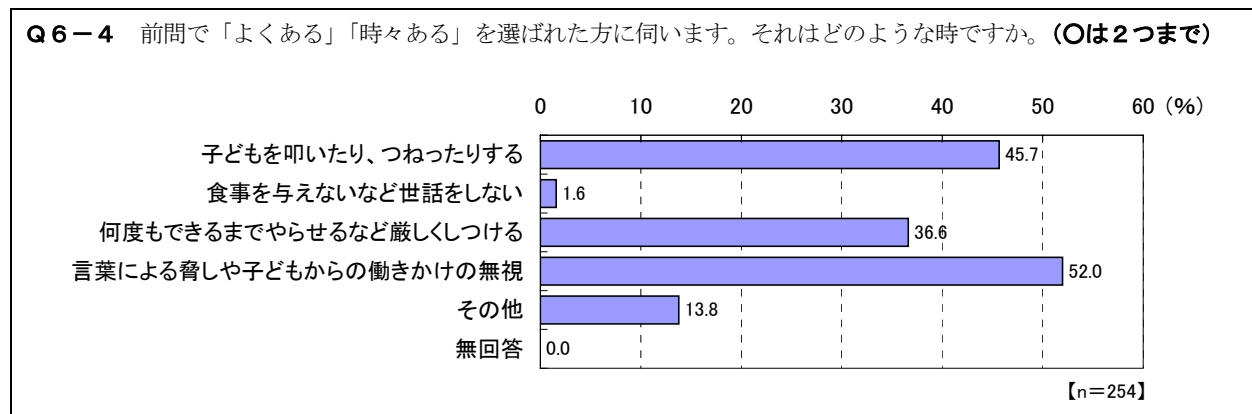
子どもの世話をしたくないときが「時々ある」(42.2%)が最も多い結果となり、以下、「ほとんどない」(36.1%)、「ない」(17.3%)、「よくある」(3.8%)の順となり、前問の子育てでどうしていいかわからなくなることの回答とほぼ同様の傾向を示している。

3.5 自分は子どもを虐待していると思うか



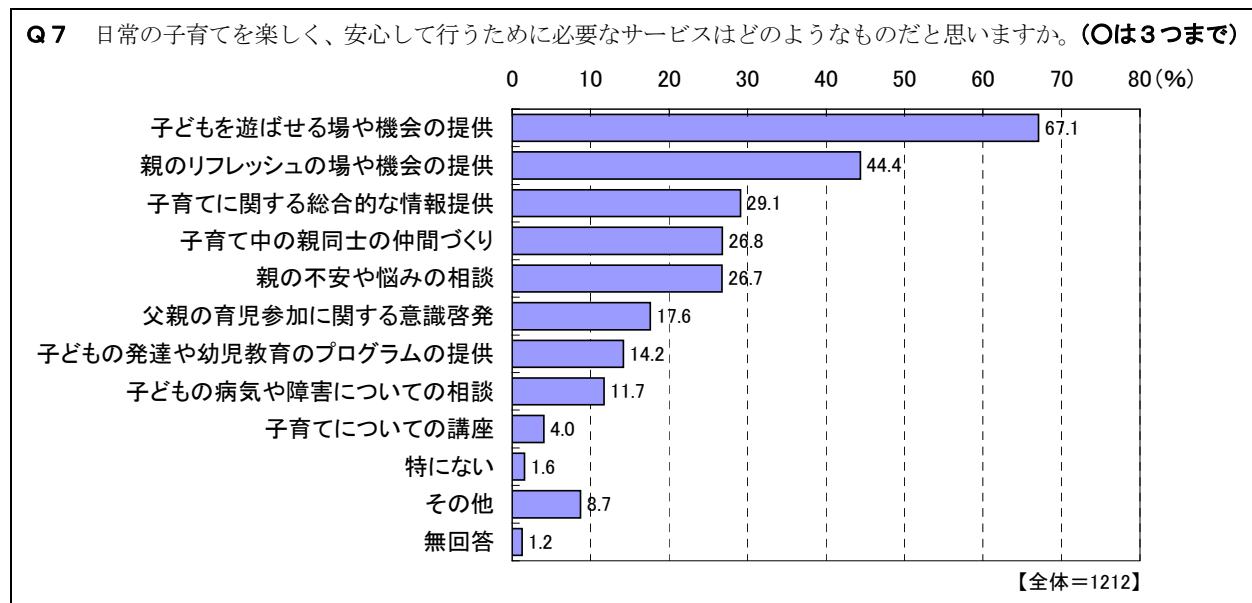
子どもを虐待していると思うことは「ない」(44.1%)が最も多い結果となり、以下、「ほとんどない」(34.0%)、「時々ある」(20.2%)、「よくある」(0.7%)の順となった。

3.6 子どもを虐待していると思うとき



前問の虐待をしていると思うときが「時々ある」と「よくある」を合わせた 20.9%の回答者が、どんな時に虐待していると思うかについては、「言葉による脅しや子どもからの働きかけの無視」(52.0%)が最も多く半数を超え、以下、「子どもを叩いたり、つねったりする」(45.7%)、「何でもできるまでやらせるなど厳しくしつける」(36.6%)の順となった。

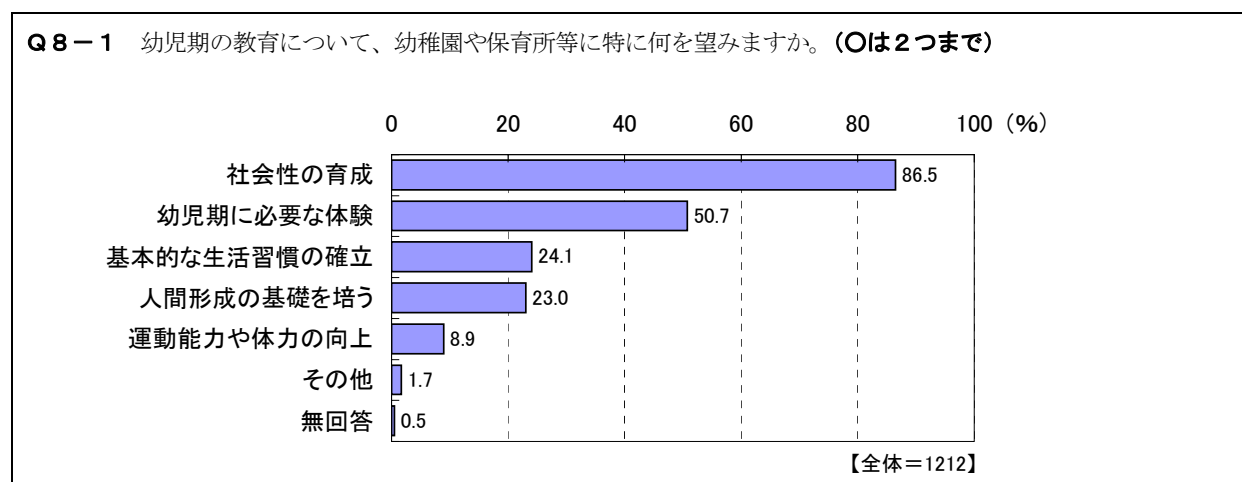
3.7 子育てを楽しく行うために必要なサービス



回答者が日常の子育てを楽しく安心して行うために必要と思うサービスは、「子どもを遊ばせる場や機会の提供」(67.1%)が最も多く全体のほぼ 2/3 を占める結果となり、以下、「親のリフレッシュの場や機会の提供」(44.4%)、「子育てに関する総合的な情報提供」(29.1%)、「子育て中の親同士の仲間づくり」(26.8%)、「親の不安や悩みの相談」(26.7%)と続いている。

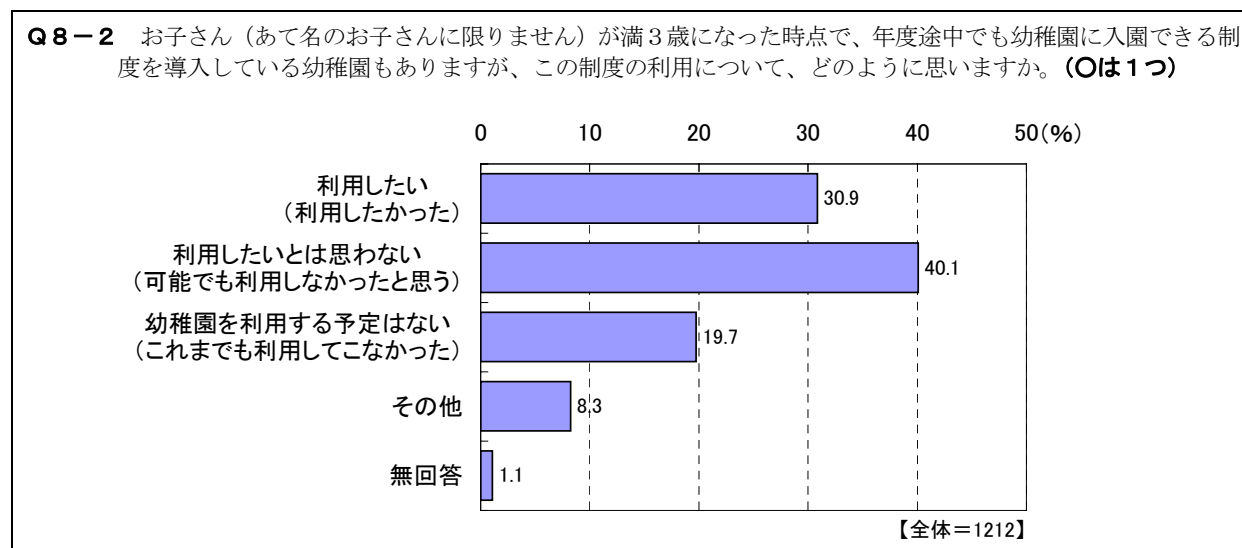
第4章 子どもの教育や保育について

4.1 幼稚園や保育所に望むこと



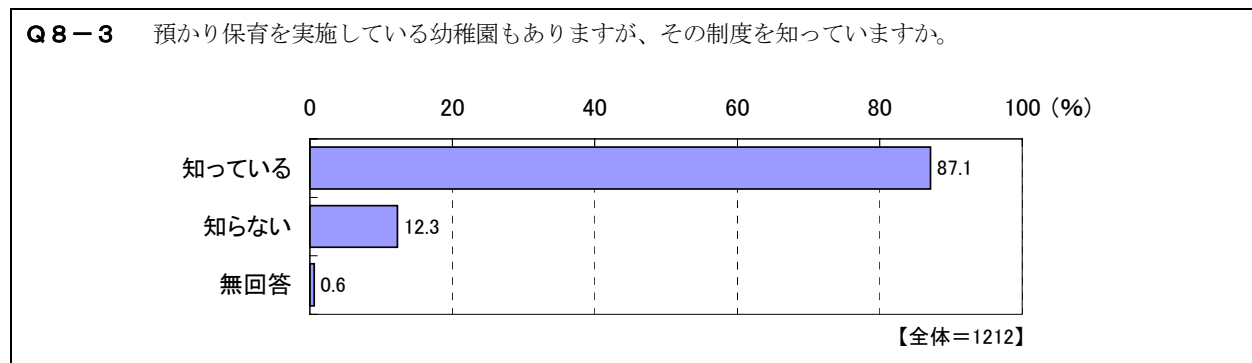
幼児期の教育について、幼稚園や保育所等に特に望むことは、「社会性の育成」(86.5%)が最も多く、以下、「幼児期に必要な体験」(50.7%)、「基本的な生活習慣の確立」(24.1%)、「人間形成の基礎を培う」(23.0%)と続いている。

4.2 年度途中でも入園できる制度の利用意向



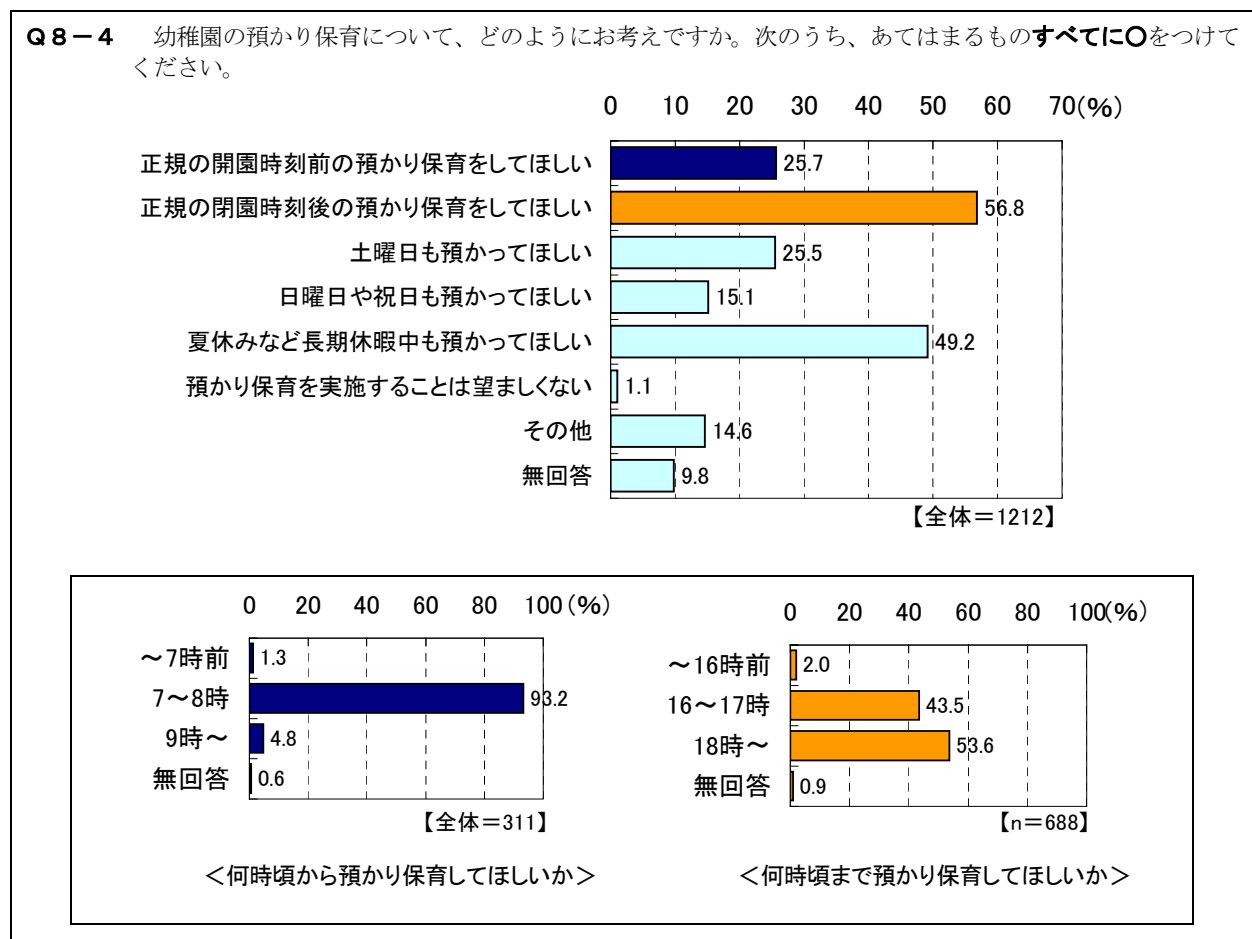
満3歳になった時点で、年度途中でも入園できる制度について、「利用したいとは思わない(可能でも利用しなかったと思う)」(40.1%)が、「利用したい(利用したかった)」(30.9%)を上回る結果となった。

4.3 預かり保育制度の認知度



幼稚園における預かり保育を「知っている」回答者は87.1%と多くの割合を占めた。「知らない」は12.3%にとどまった。

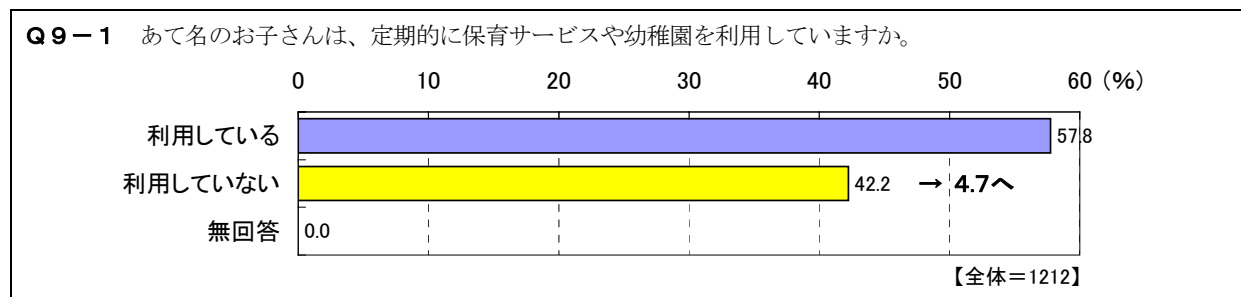
4.4 預かり保育に対する考え方



「正規の開園時刻後の預かり保育」（56.8%）に対する要望が最も多く、その時間帯も「18時以降」（53.6%）まで希望する割合が最も多い結果となり、「16時～17時」（43.5%）がこれに次いだ。「正規の開園時刻前の預かり保育」（25.7%）に対する要望もほぼ回答者の1/4を占めており、その時間帯は「7～8時」（93.2%）からを希望する割合が最も多かった。これら以外では、「夏休みなど長期休暇中も預かってほしい」（49.2%）、「土曜日も預かってほしい」（25.5%）、「日曜日や祝日も

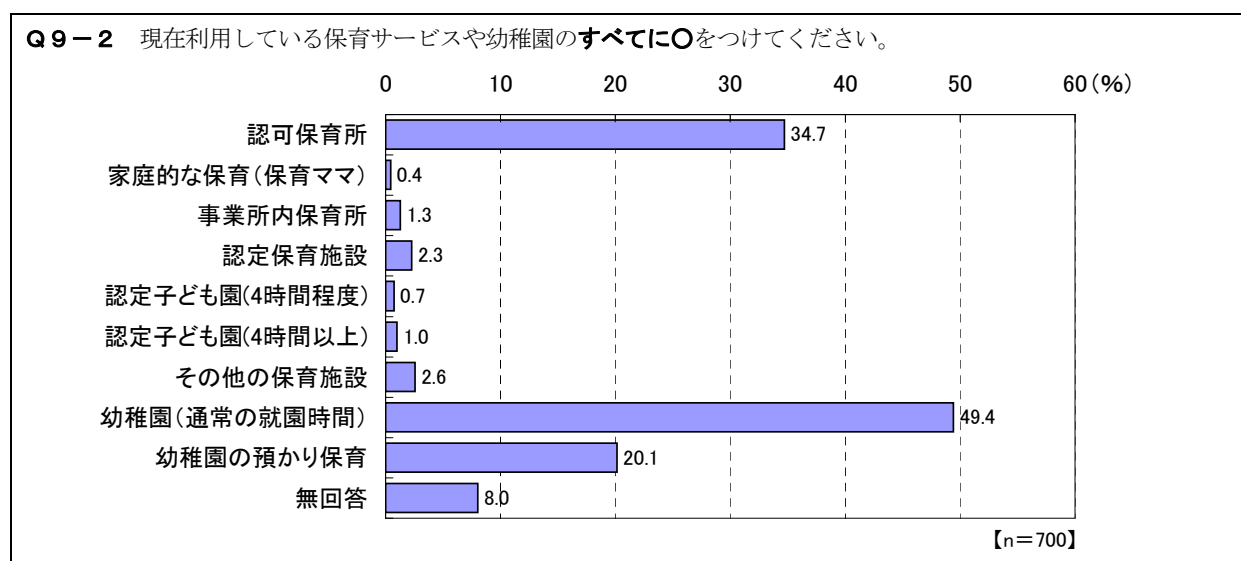
預かってほしい」(15.1%)と続いている。なお、「預かり保育を実施することは望ましくない」(1.1%)は低い割合にとどまった。

4.5 保育サービスや幼稚園の利用状況

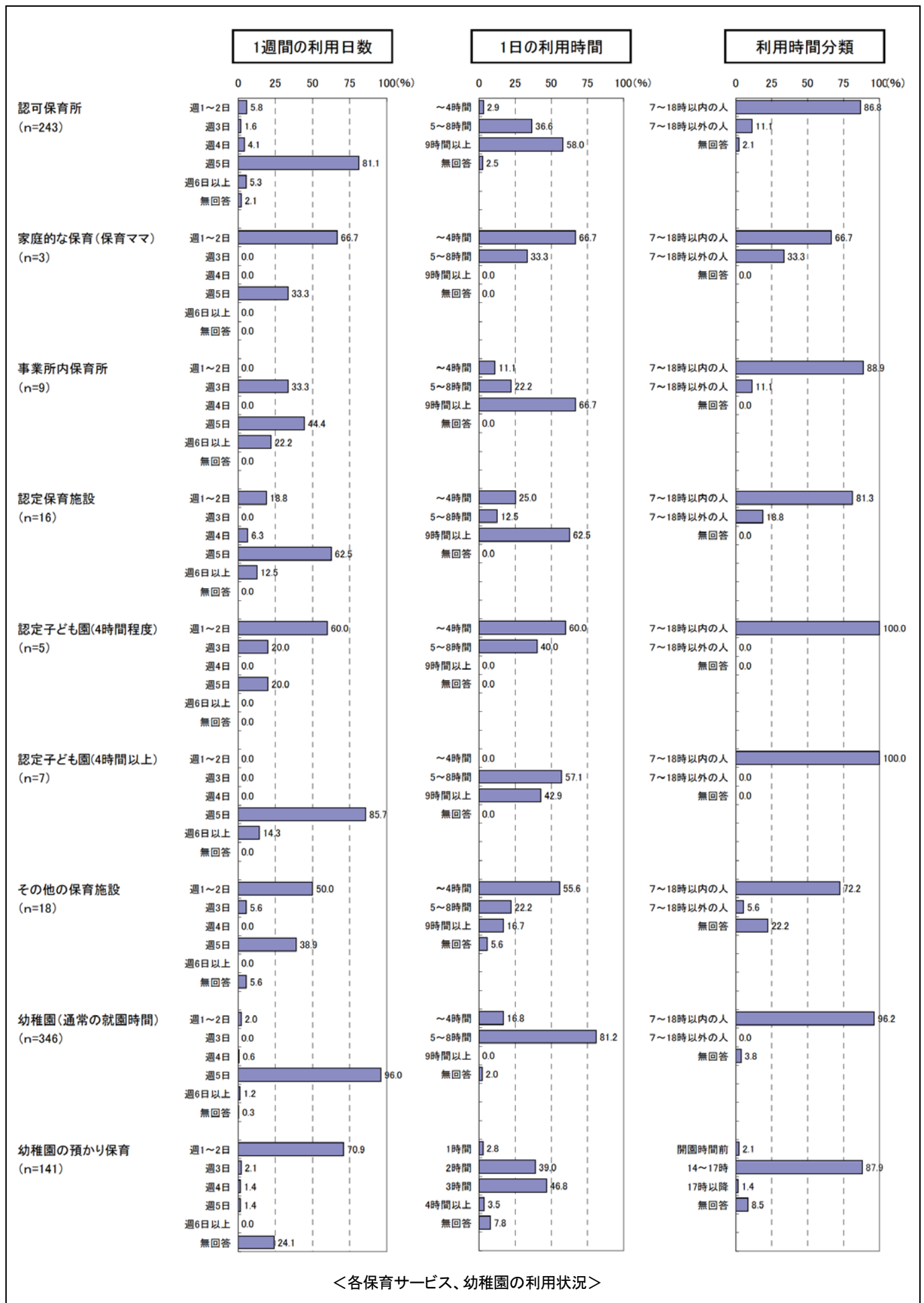


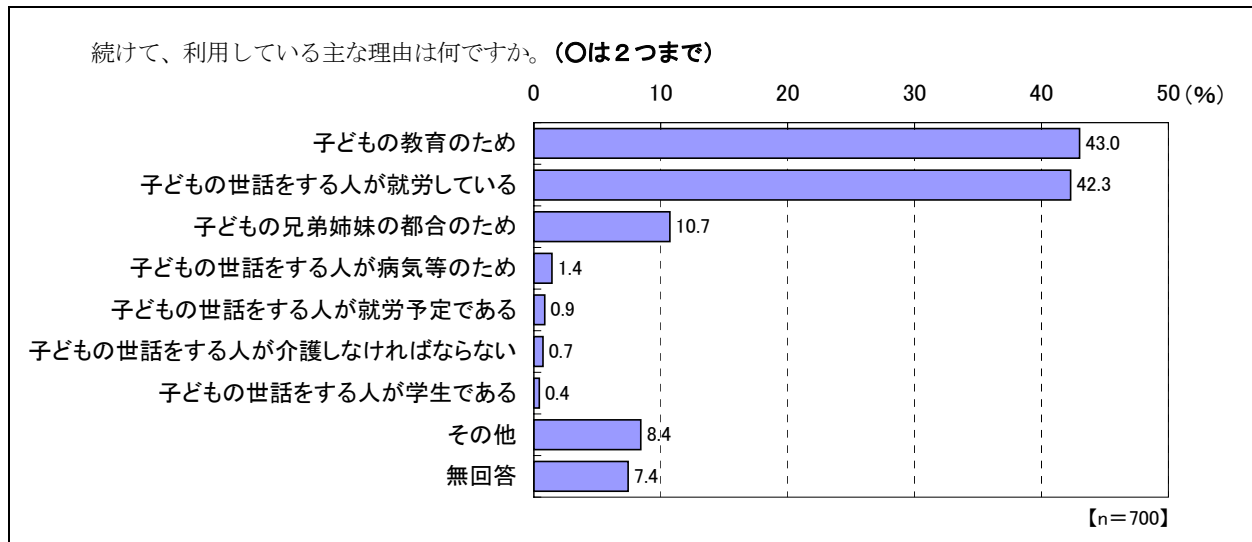
定期的な保育サービスや幼稚園を「利用している」回答者は57.8%と半数を超える結果となった。「利用していない」は42.2%であった。

4.6 現在利用している保育サービスや幼稚園



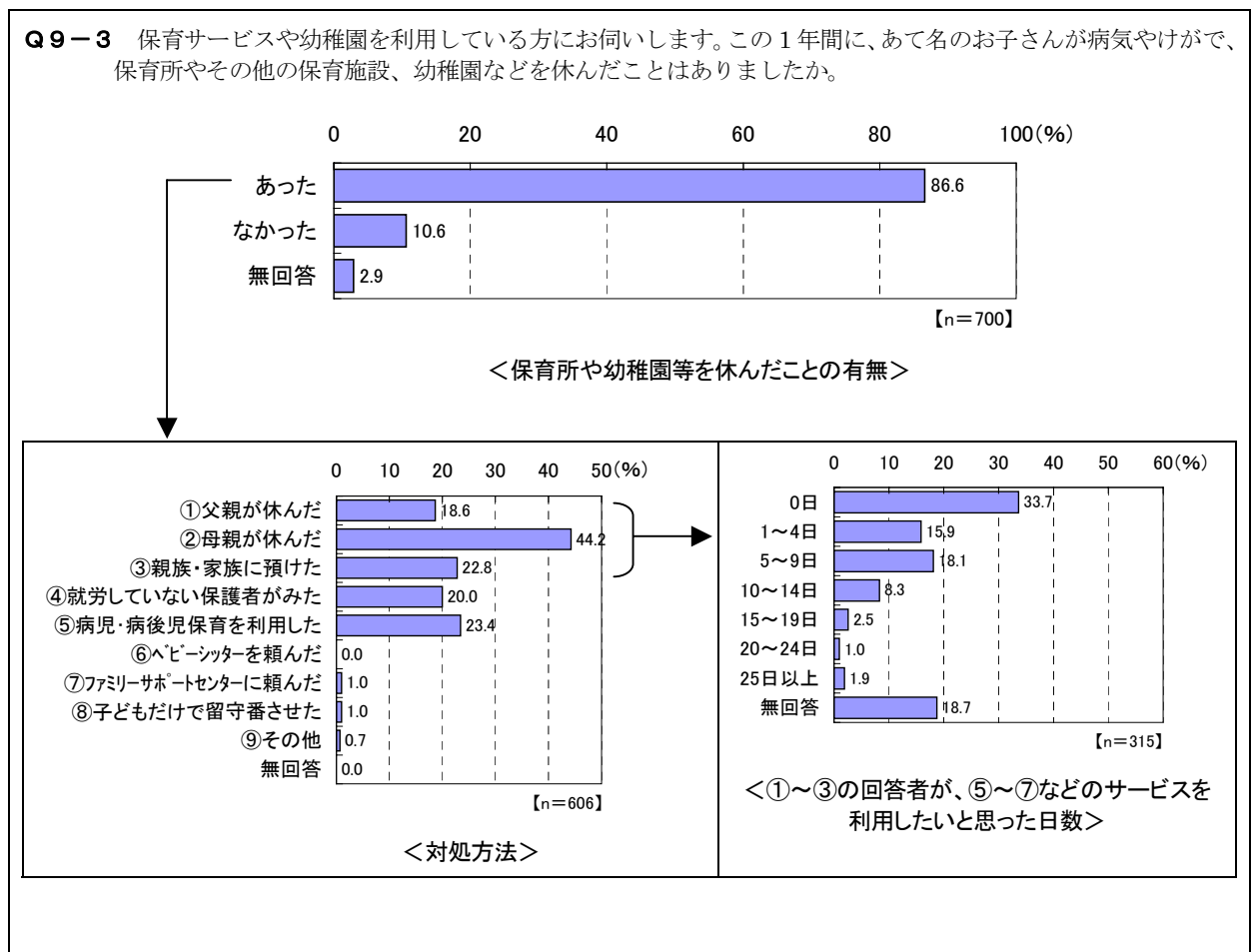
利用している定期的な保育サービスや幼稚園で、最も多かったのは「幼稚園(通常の就園時間)」(49.4%)で、回答者のほぼ半数が利用している結果となった。以下、「認可保育所」(34.7%)、「幼稚園の預かり保育」(20.1%)と続き、さらに「その他の保育施設」(2.6%)、「認定保育施設」(2.3%)、「事業所内保育施設」(1.3%)、「認定子ども園(4時間以上)」(1.0%)など低い割合ではあるものの、選択肢の全ての保育サービスに対し、市民の利用実態があることが把握された。

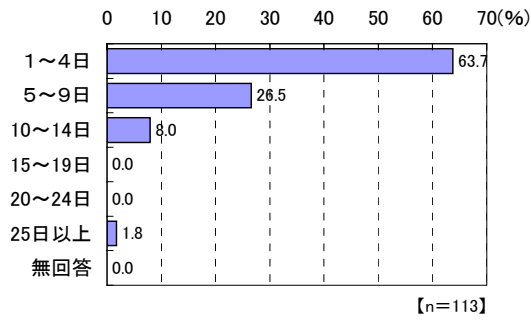




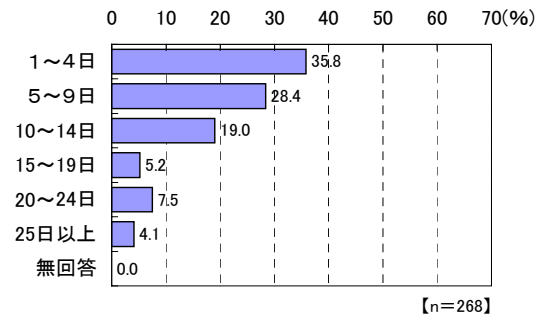
保育サービスや幼稚園を利用している理由として最も多かったのは「子どもの教育のため」(43.0%)、並びに「子どもの世話をする人が就労している」(42.3%)が上位を占め、子どもの教育目的とほぼ同様の割合で、両親等の保護者が就労していることが保育サービス等の利用の大きな動機となっていることがうかがえる。

4.7 保育所や幼稚園等を休んだことの有無と対処方法

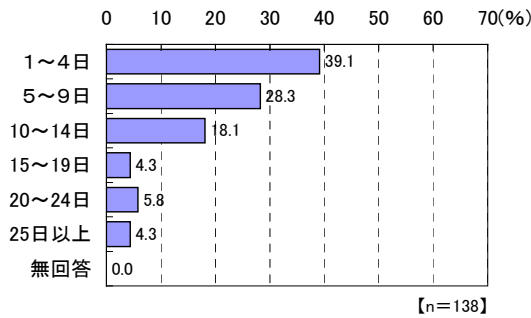




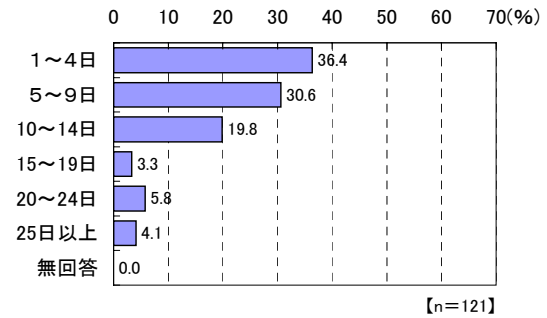
①父親が休んだ日数



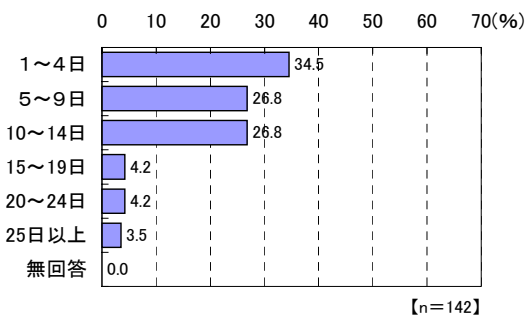
②母親が休んだ日数



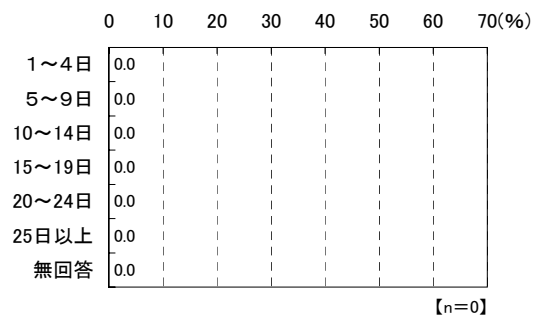
③同居者を含む親族・家族に預けた日数



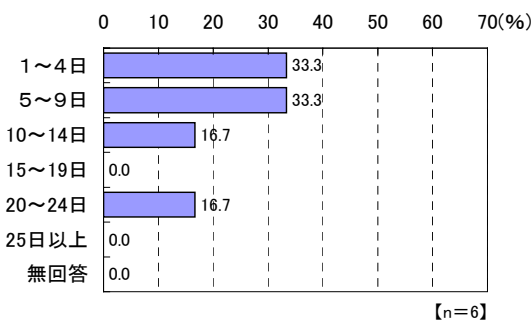
④就労していない保護者がみた日数



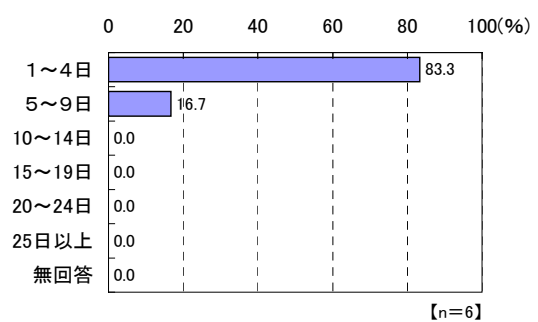
⑤病児・病後児保育を利用した日数



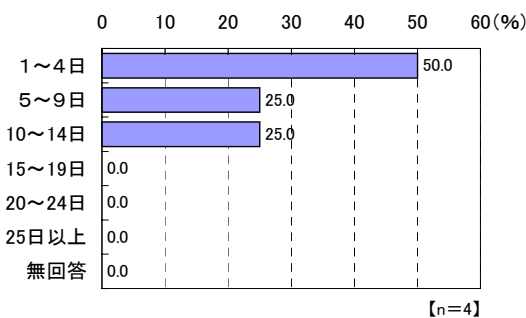
⑥ベビーシッターを頼んだ日数



⑦ファミリーサポートセンターに頼んだ日数



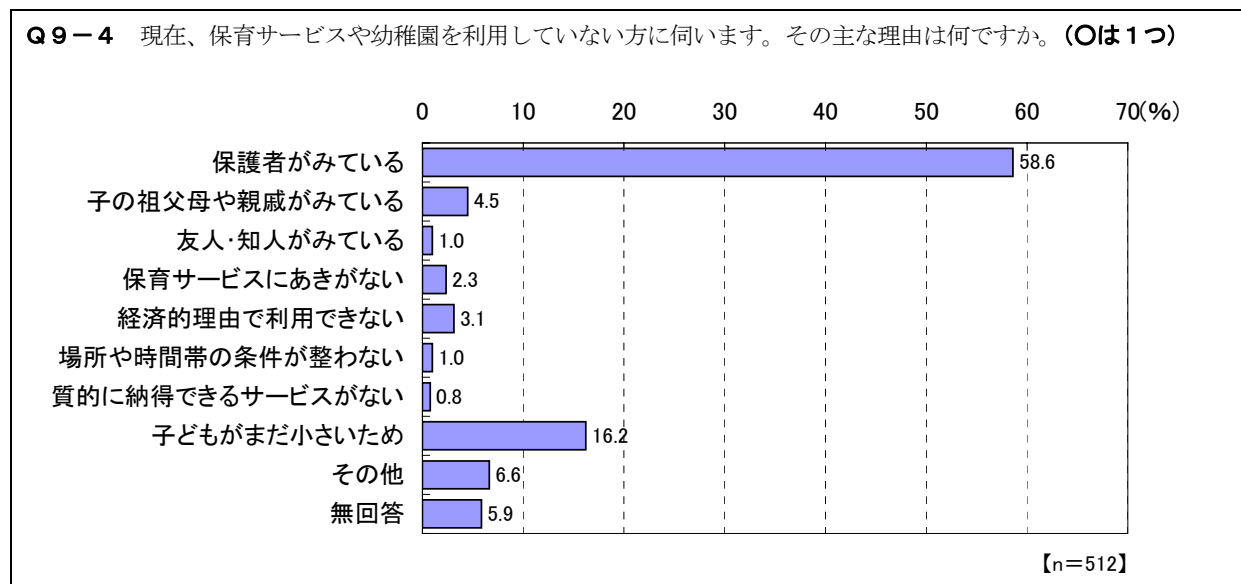
⑧子どもだけで留守番させた日数



⑨その他の日数

保育サービスや幼稚園を利用している回答者で、この1年間に子どもが病気やけがで休んだことが「あった」は86.6%と多くを占める割合となった。対処方法として最も多かったのは「母親が休んだ」(44.2%)で、「病児・病後児保育を利用した」(23.4%)、「同居者を含む親族・家族に預けた」(22.8%)と続いている。

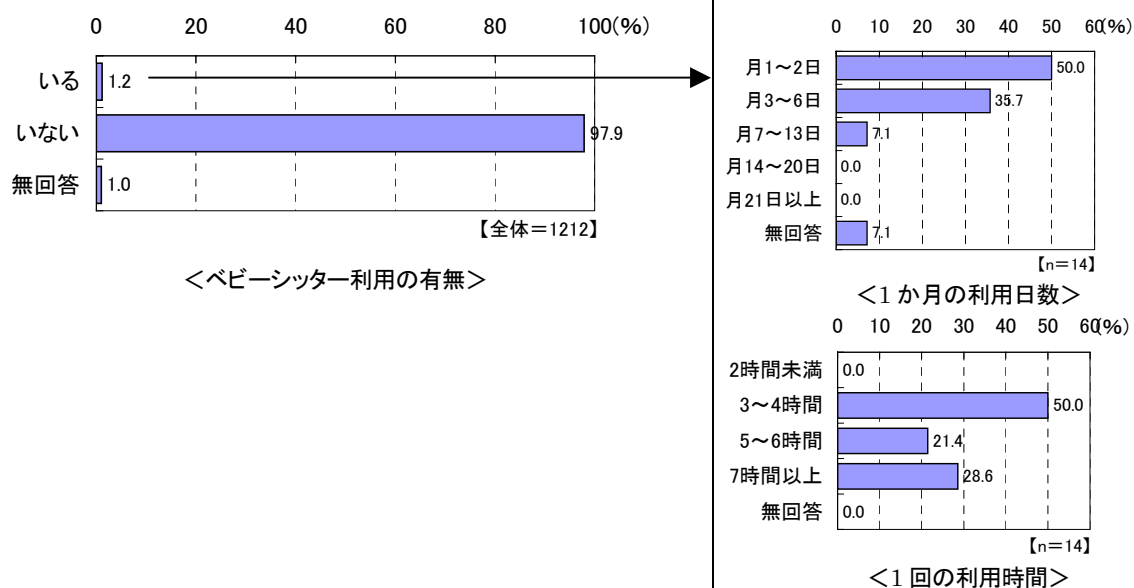
4.8 保育サービスや幼稚園を利用していない理由



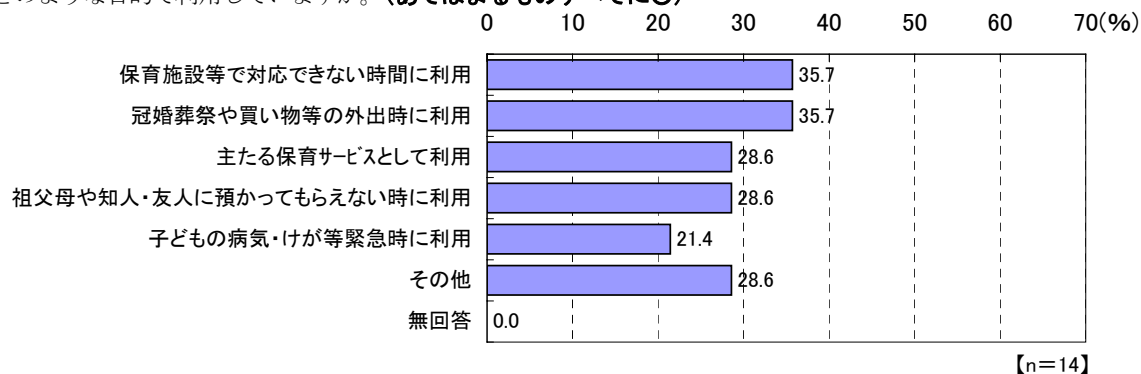
保育サービスや幼稚園を利用していない理由としては、「保護者がみている」(58.6%)ことを理由とする割合が最も多く半数以上を占めた。以下、「子どもがまだ小さいため」(16.2%)、「子の祖父母や親戚がみている」(4.5%)、「経済的理由で利用できない」(3.1%)と続いている。

4.9 ベビーシッターの利用状況

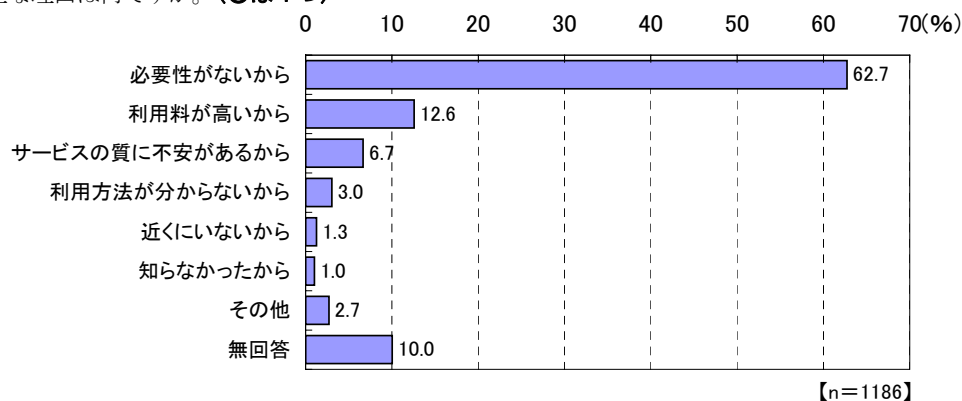
Q10-1 あて名のお子さんは、ベビーシッターを利用していますか。併せて「いる」方は利用日数や目的を、「いない」方はその主な理由をお答えください。



どのような目的で利用していますか。(あてはまるものすべてに○)



利用していない主な理由は何ですか。(○は1つ)



ベビーシッターの利用状況は、利用して「いない」(97.9%)が大多数を占め、利用して「いる」は1.2%(1212人中14人)であった。

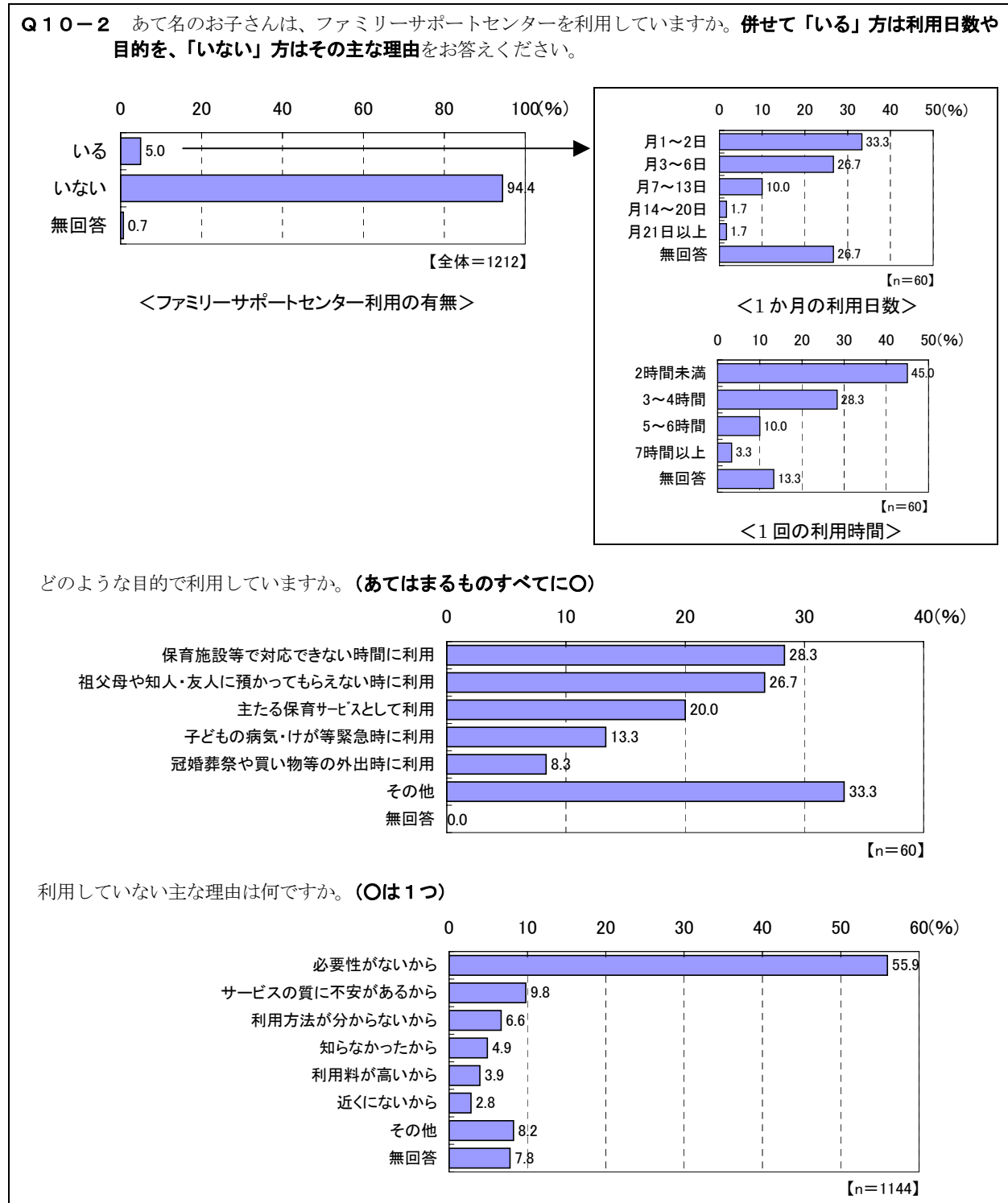
利用して「いる」回答者の、1か月の利用日数は「月1~2日」(50.0%)が最も多く、以下「月3~6日」(35.7%)、「月7~13日」(7.1%)と続き、月14日以上の利用者は皆無であった。1回の

利用時間は、「3～4時間」(50.0%)が最も多く、「7時間以上」(28.6%)が続いた。

利用する目的は、「保育施設等に対応できない時間に利用」「冠婚葬祭や買い物等の外出時に利用」(ともに35.7%)が最も多い結果となった。

一方、ベビーシッターを利用して「いない」回答者のその理由としては、「必要性がないから」(62.7%)が最も多い割合を占め、以下「利用料が高いから」(12.6%)、「サービスの質に不安があるから」(6.7%)となった。

4.10 ファミリーサポートセンターの利用状況



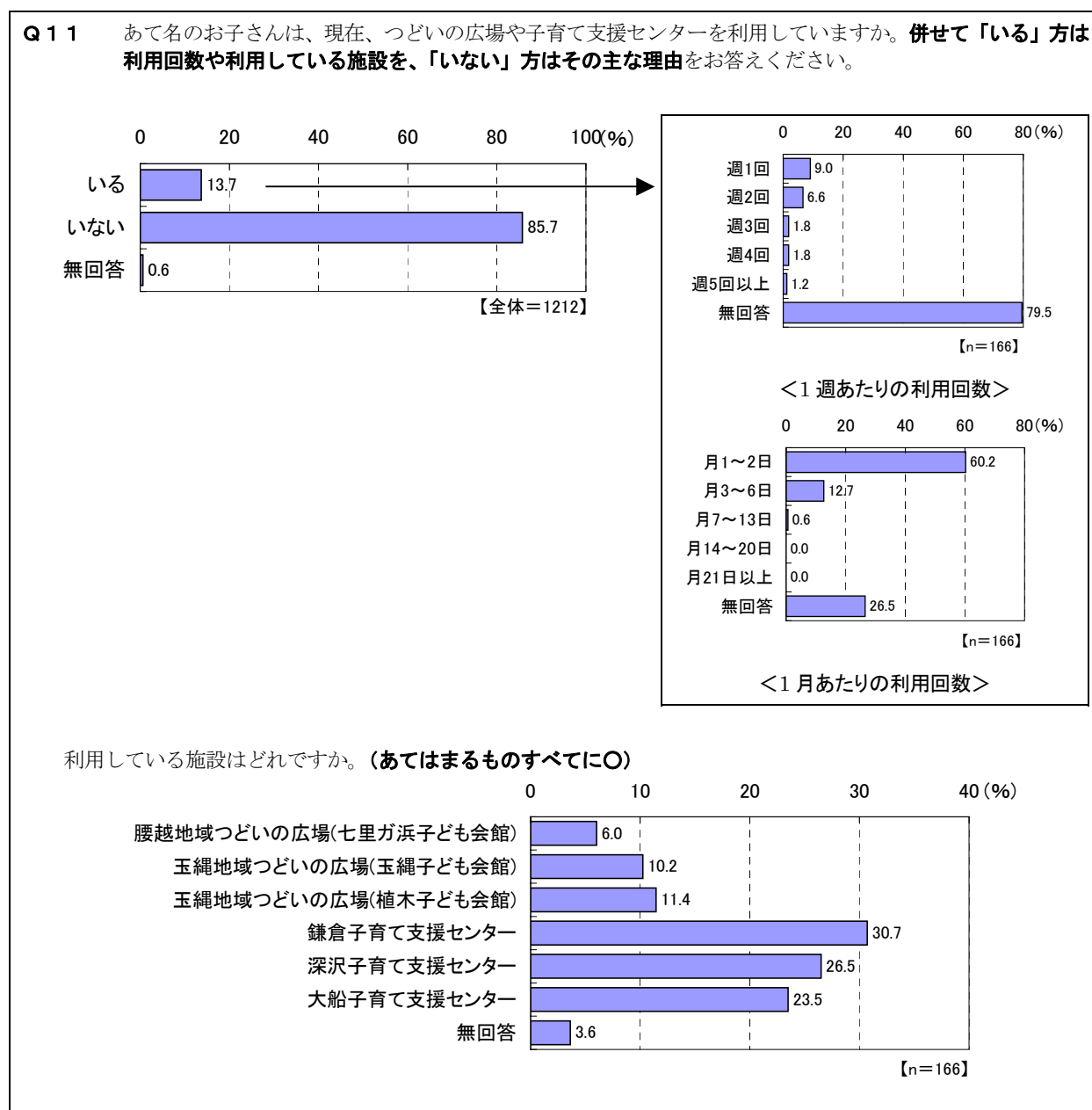
ファミリーサポートセンターの利用状況は、利用して「いない」(94.4%)が大多数を占め、利用して「いる」は5.0%(1212人中60人)であった。

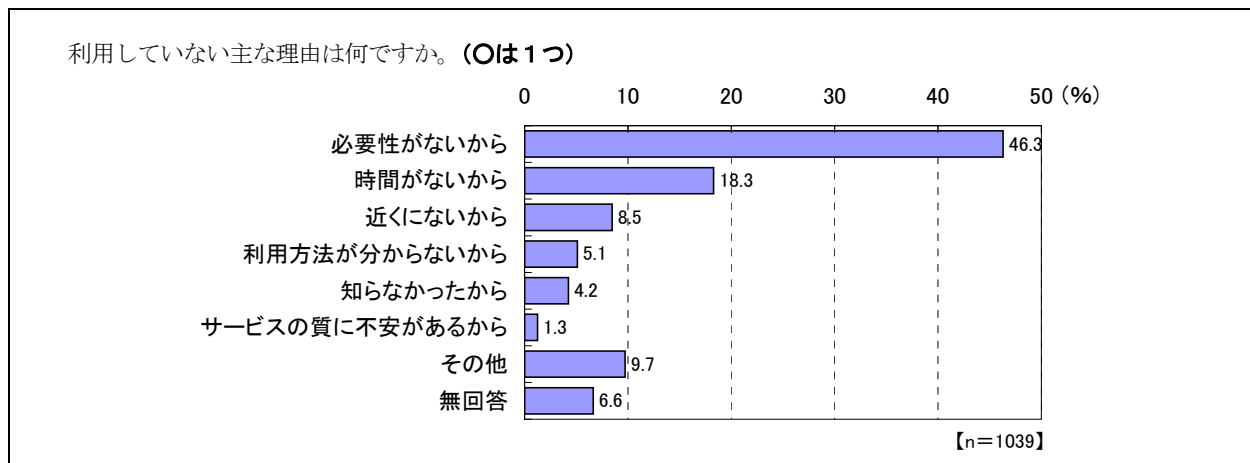
利用して「いる」回答者の、1か月の利用日数は「月1~2日」(33.3%)が最も多く、以下「月3~6日」(26.7%)、「月7~13日」(10.0%)と続いた。1回の利用時間は、「2時間未満」(45.0%)が最も多く、「3~4時間」(28.3%)、「5~6時間」(10.0%)と続いた。

利用する目的は、「保育施設等で対応できない時間に利用」(28.3%)が最も多く、「祖父母や知人・友人に預かってもらえない時に利用」(26.7%)、「主たる保育サービスとして利用」(20.0%)、「子どもの病気・けが等緊急時に利用」(13.3%)と続いた。

一方、ファミリーサポートセンターを利用して「いない」回答者のその理由としては、「必要性がないから」(55.9%)が最も多い割合を占め、以下、「サービスの質に不安があるから」(9.8%)、「利用方法がわからないから」(6.6%)、「知らなかったから」(4.9%)と続いている。

4.11 つどいの広場、子育て支援センターの利用状況





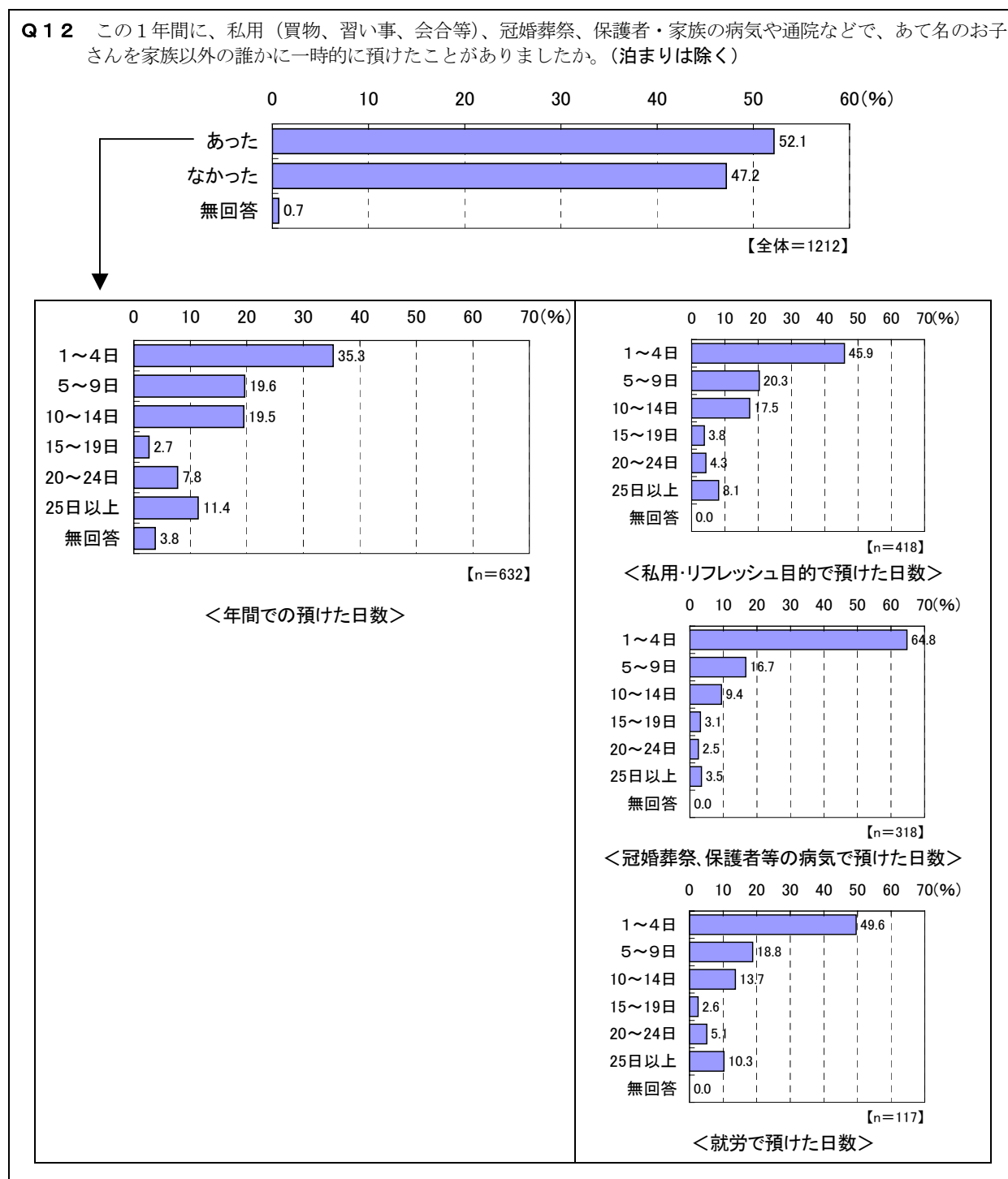
つどいの広場や子育て支援センターの利用状況は、利用して「いない」(85.7%)が多数を占め、利用して「いる」は13.7%(1212人中166人)であった。

利用日数は、1週あたりでは「週1回」(9.0%)が最も多く、「週2回」(6.6%)、「週3回」「週4回」(1.8%)、「週5回以上」(1.2%)と続いた。1月あたりでみた場合は、「月1~2日」(60.2%)が最も多く、「月3~6日」(12.7%)と続いた。

利用している施設は、全体的につどいの広場より子育て支援センターの方の利用の割合が高く、最も多かったのは「鎌倉子育て支援センター」(30.7%)、次いで「深沢子育て支援センター」(26.5%)、「大船子育て支援センター」(23.5%)となった。つどいの広場で最も多かったのは、「玉縄地域つどいの広場(植木子ども会館)」(11.4%)であった。

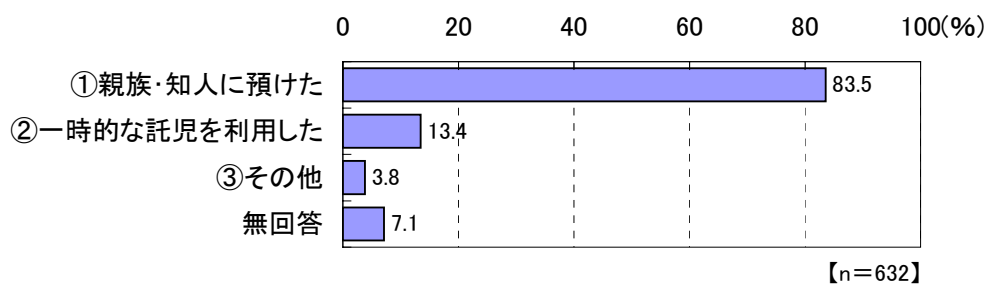
一方、利用して「いない」理由は、「必要性がないから」(46.3%)が最も多い割合を占め、以下、「時間がないから」(18.3%)、「近くにないから」(8.5%)、「利用方法が分からないから」(5.1%)と続いている。

4.12 子どもを一時的に預けたことの有無と対処方法

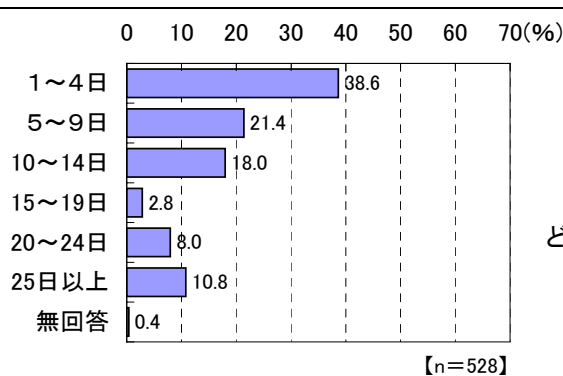


この1年間に、子どもを家族以外の誰かに預けたことが「あった」（52.1%）が「なかった」（47.2%）を上回る結果となった。半数を超える回答者が、年間で「1～4日」（35.3%）、「5～9日」（19.6%）、「10～14日」（19.5%）、「25日以上」（11.4%）の順で、私用や冠婚葬祭、保護者・家族の病気や通院などの際に一時的に（泊まりをのぞく）子どもを預けた経験を有している。

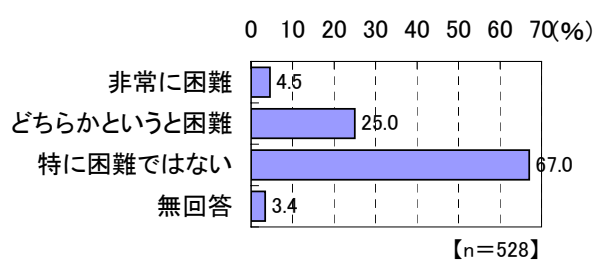
具体的な対処方法とそれぞれのおおよその日数について伺います。



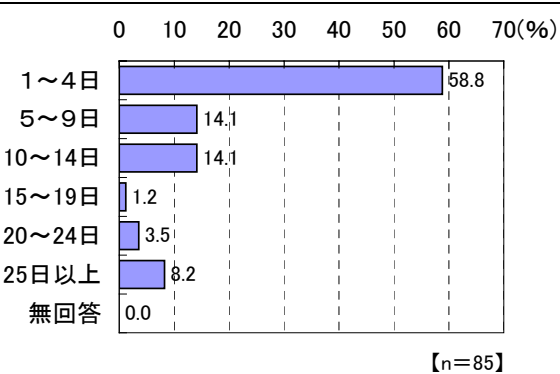
<預けた際の具体的な対処方法>



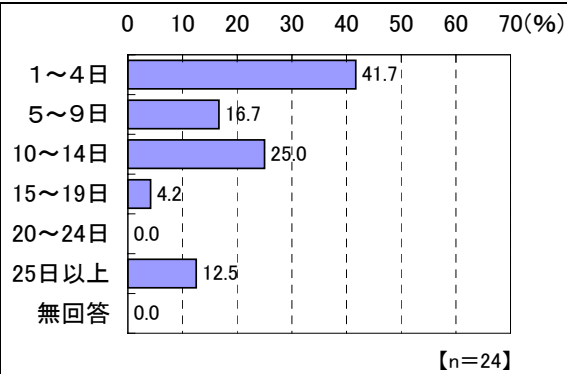
<①親族・知人に預けた日数>



<親族・知人に預ける難しさ>



<②一時的な託児を利用した日数>

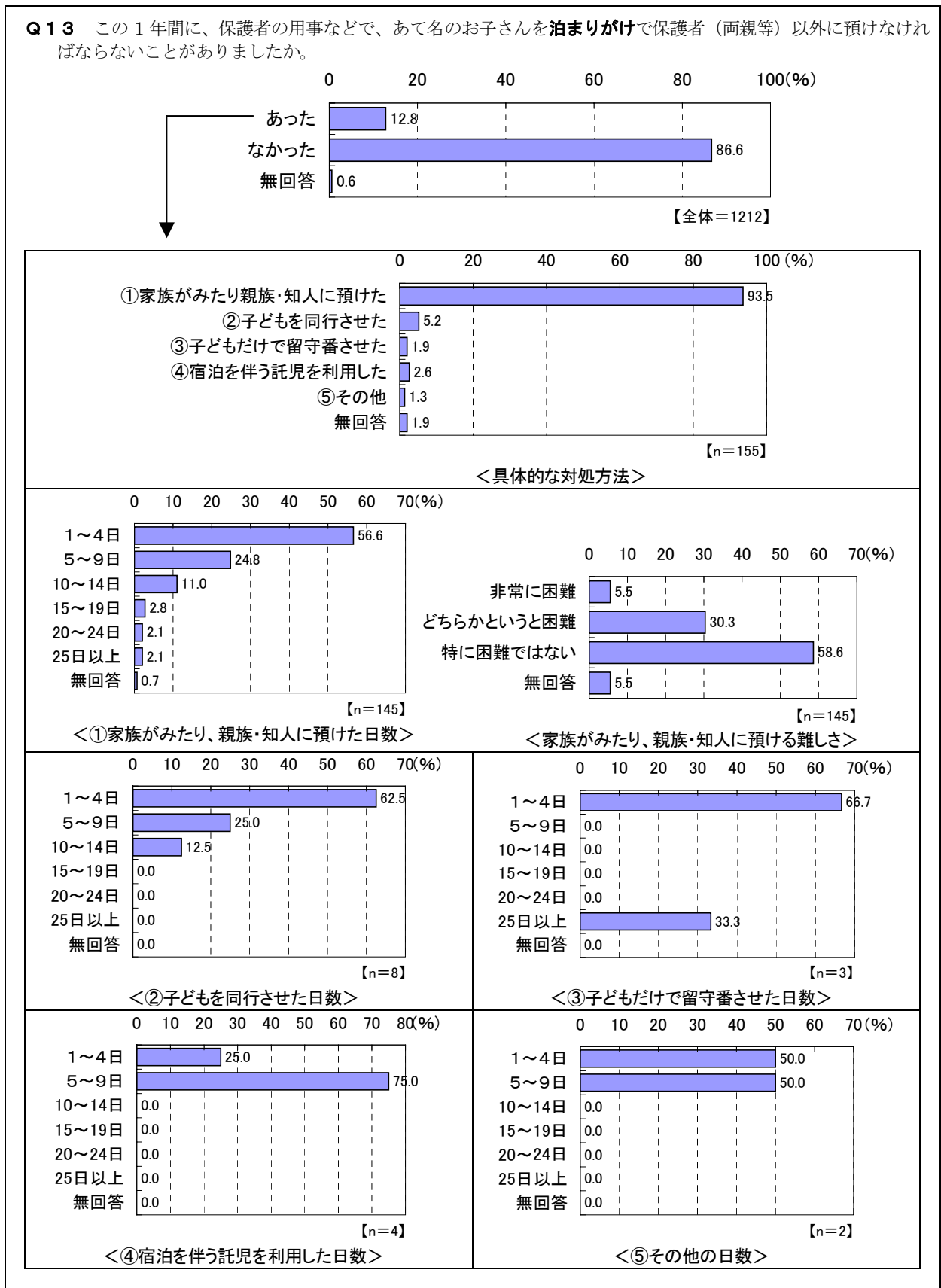


<③その他の日数>

一時的に子どもを預けた具体的な対処方法は、「親族・知人に預けた」(83.5%)が多くの割合を占め、以下、「一時的な託児を利用した」(13.4%)、「その他」(3.8%)と続いた。

親族・知人に預けた日数は、「1~4日」(38.6%)、「5~9日」(21.4%)、「10~14日」(18.0%)、「25日以上」(10.8%)と続き、また、親族・知人に預ける難しさは「特に困難ではない」(67.0%)が多くを占め、「非常に困難」は4.5%と少ない割合であった。

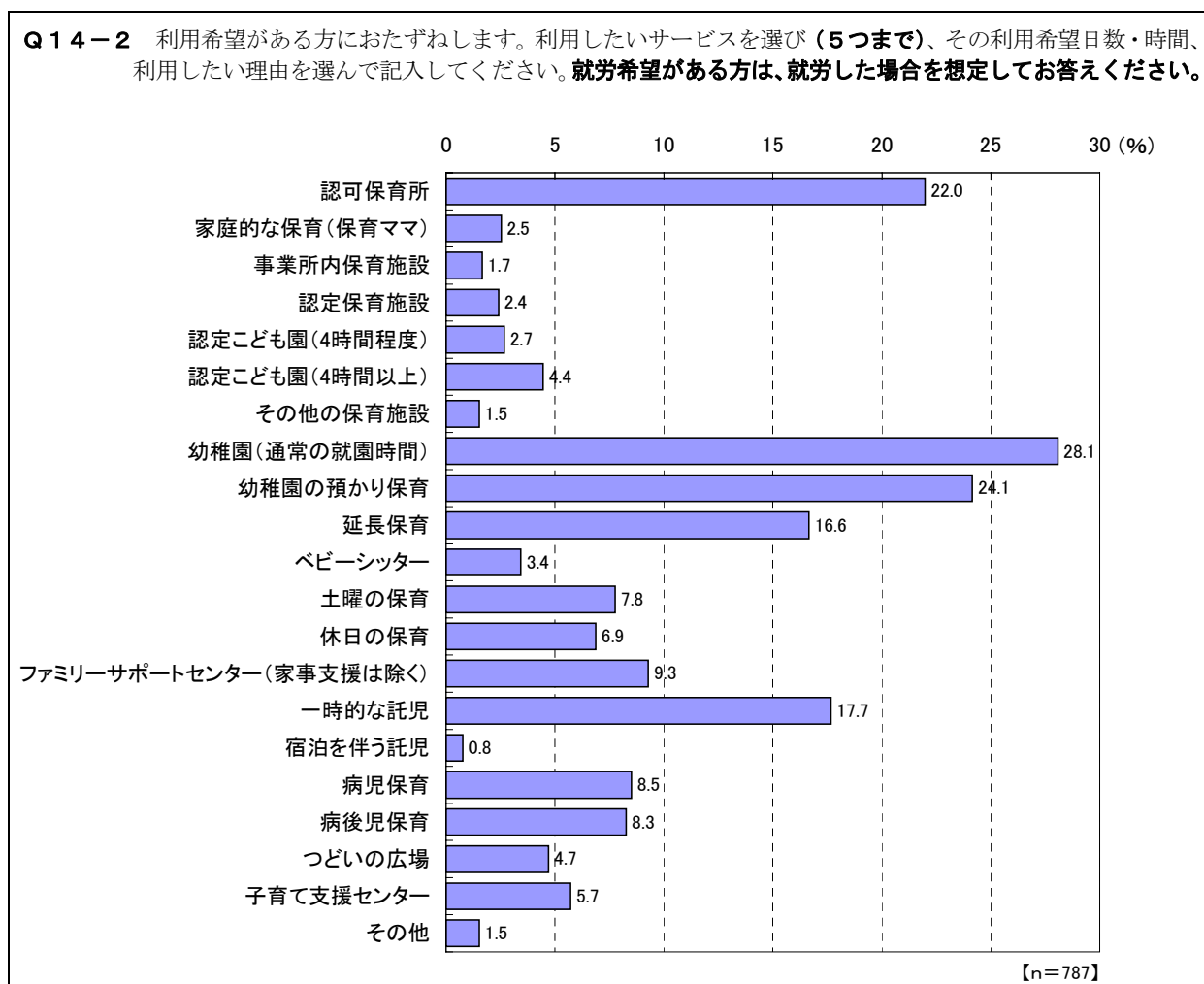
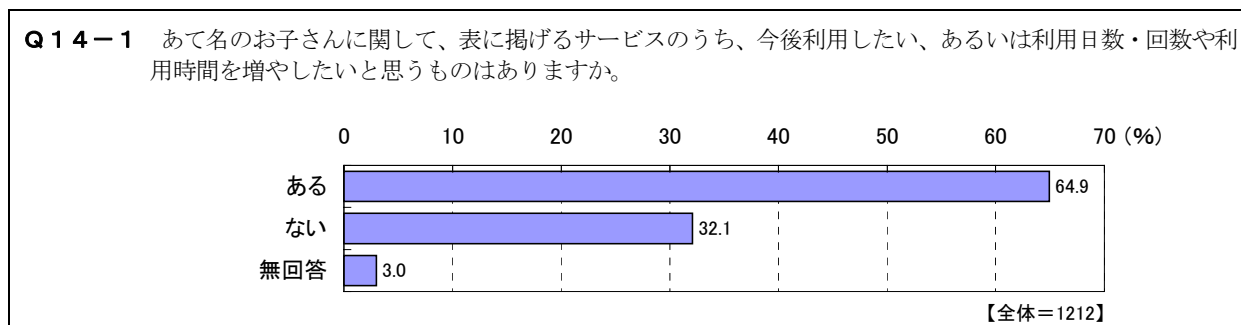
4.13 子どもを泊まりがけで預けたことの有無と対処方法



この1年間に、泊まりがけで子どもを保護者以外に預けなければならないことが「なかった」(86.6%)が多くの割合を占め、「あった」は12.8%にとどまった。

具体的な対処方法としては、「家族がみたり親族・知人に預けた」(93.5%)が最も多くの割合を占め、以下、「子どもを同行させた」(5.2%)、「宿泊を伴う託児を利用した」(2.6%)等と続いている。家族がみたり親族・知人に預けた日数は、「1~4日」(56.6%)、「5~9日」(24.8%)、「10~14日」(11.0%)と続き、また、家族がみたり親族・知人に預ける難しさは「特に困難ではない」(58.6%)と多くを占めるものの、前問の泊まりを伴わない一時的な託児よりも、割合は少なくなり、「非常に困難」(5.5%)、「どちらかというとも困難」(30.3%)と“困難”とする回答の割合は増加している。

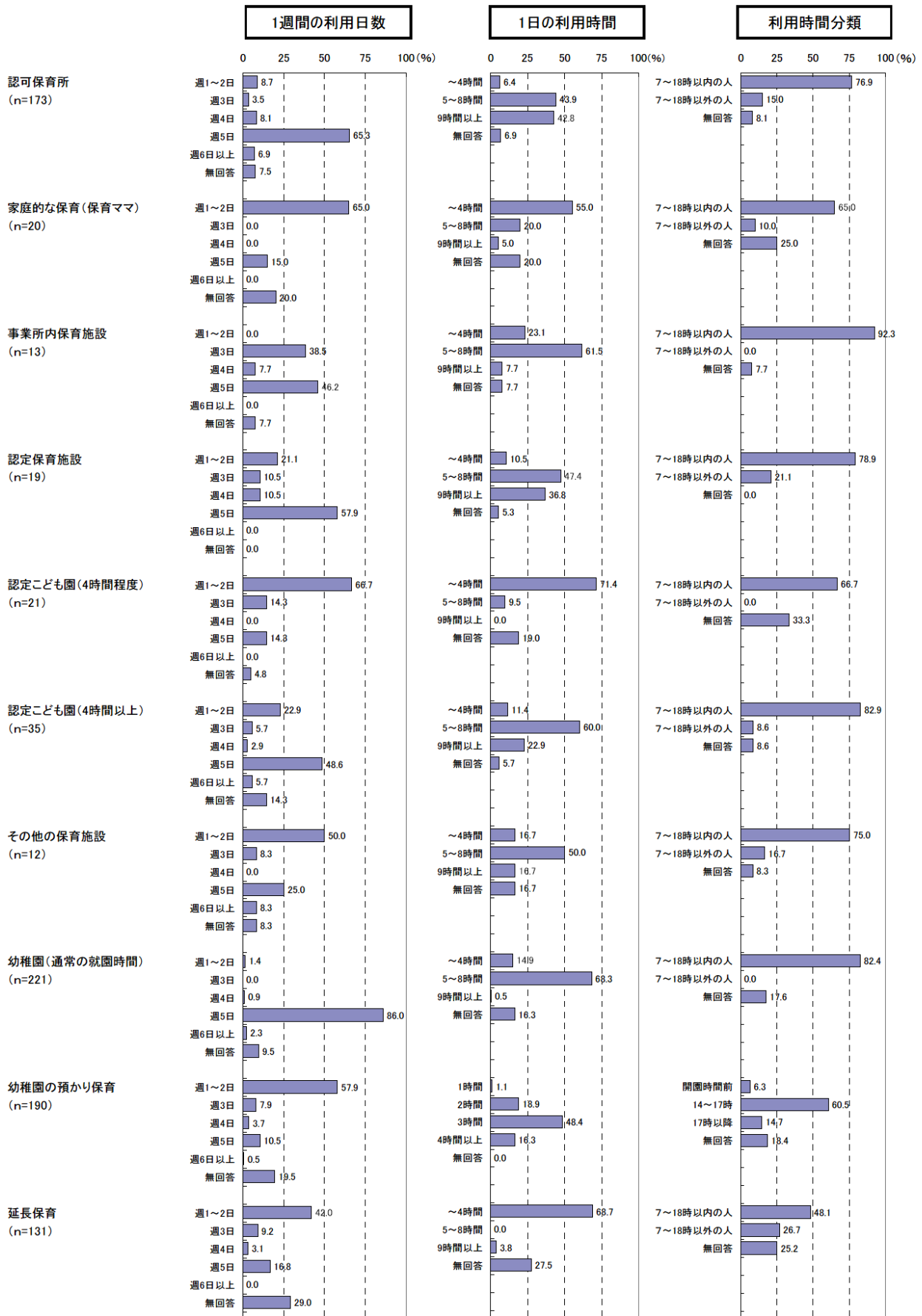
4.14 今後利用したいサービスについて



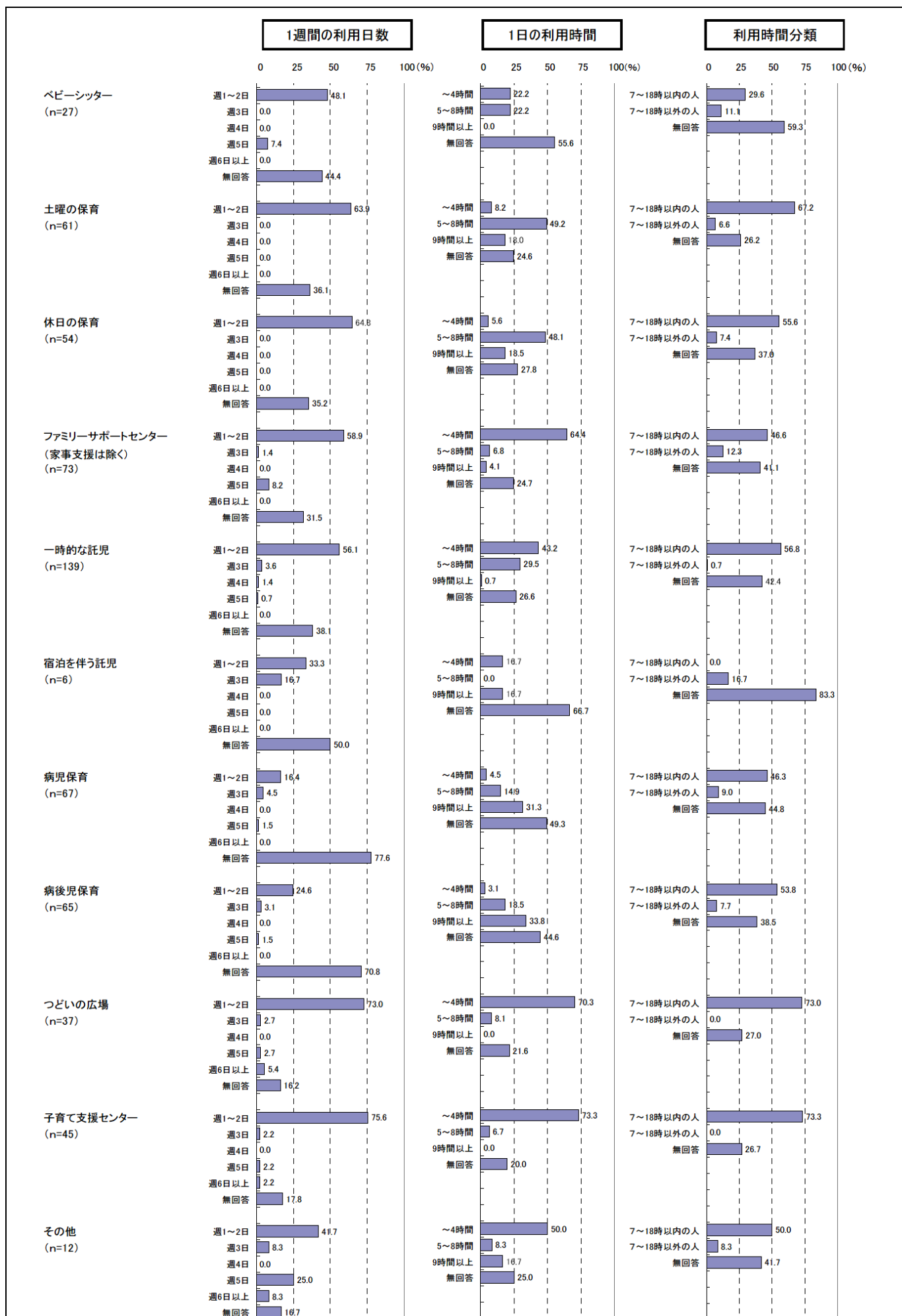
今後利用したい、あるいは利用回数・回数・時間を増やしたいなどの意向を有する保育サービス

等が「ある」は 64.9%、「ない」は 32.1%となり、回答者のほぼ 2/3 程度が、何らかの保育サービスを希望していることが把握された。

最も利用希望が多かったのは、「幼稚園（通常の就園時間）」（28.1%）で全体の 3 割弱を占め、次いで「幼稚園の預かり保育」（24.1%）、「認可保育所」（22.0%）となった。以下は、各種保育サービスの「一時的な託児」（17.7%）、「延長保育」（16.6%）、「ファミリーサポートセンター」（9.3%）、「病児保育」（8.5%）、「病後児保育」（8.3%）と続いている。

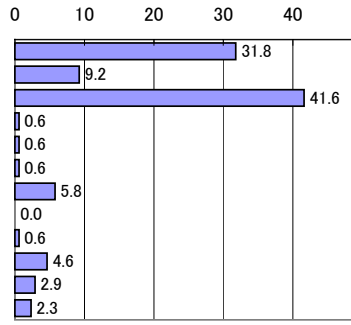


<各保育サービス等の利用希望日数・時間(1)>

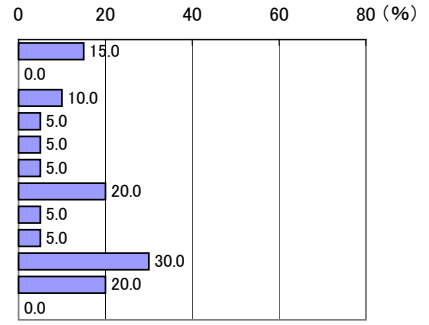


<各保育サービス等の利用希望日数・時間(2)>

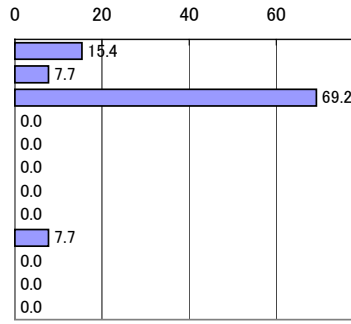
①認可保育所 <n=173>



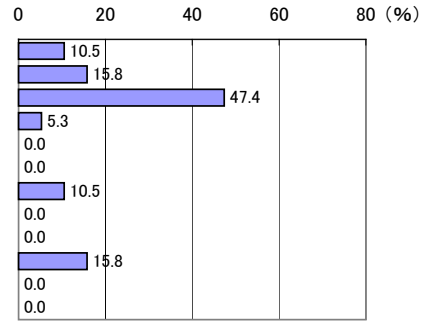
②家庭的な保育(保育ママ) <n=20>



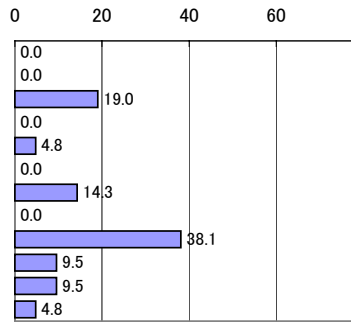
③事業所内保育施設 <n=13>



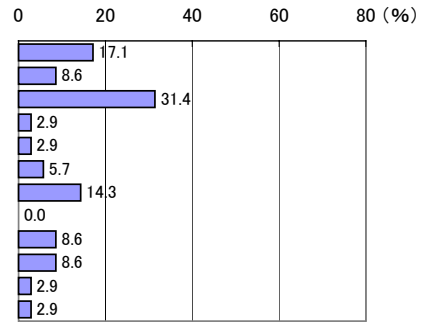
④認定保育施設 <n=19>



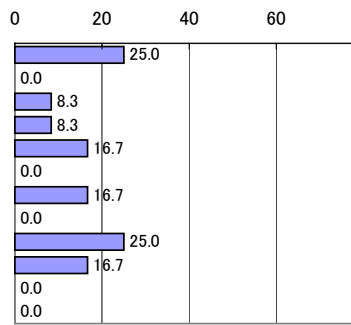
⑤認定こども園(4時間程度) <n=21>



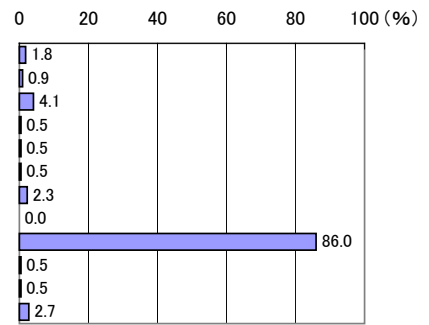
⑥認定こども園(4時間以上) <n=35>



⑦その他の保育施設 <n=12>

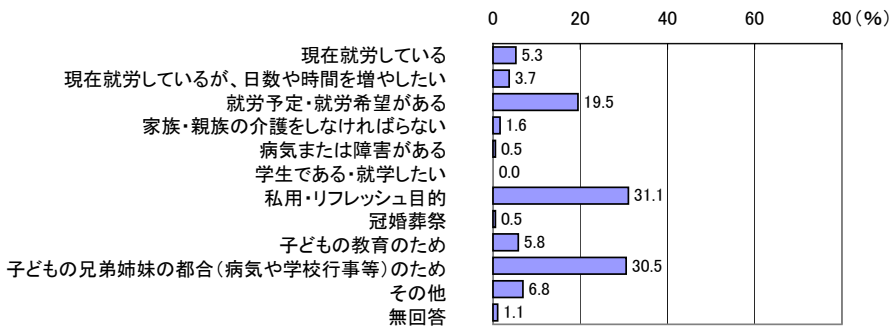


⑧幼稚園(通常の就園時間) <n=221>

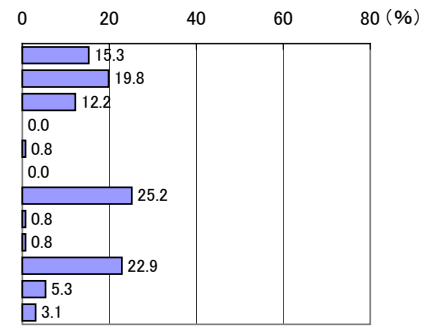


<各保育サービス等の利用希望理由(1)>

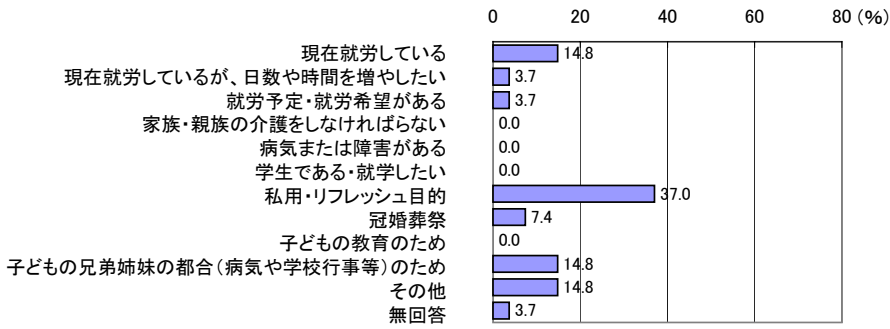
⑨幼稚園の預かり保育 <n=190>



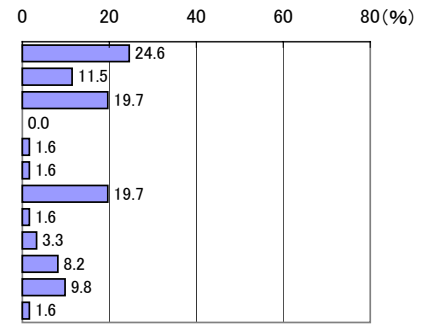
⑩延長保育 <n=131>



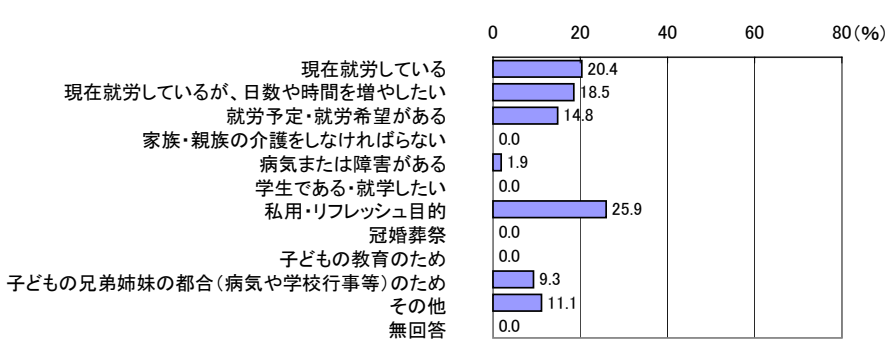
⑪ベビーシッター <n=27>



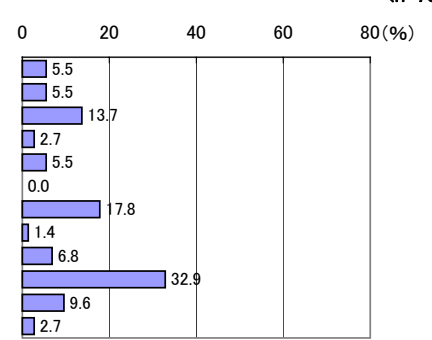
⑫土曜の保育 <n=61>



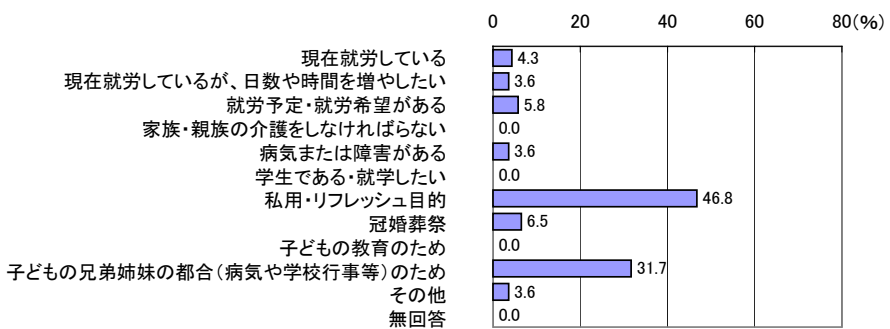
⑬休日の保育 <n=54>



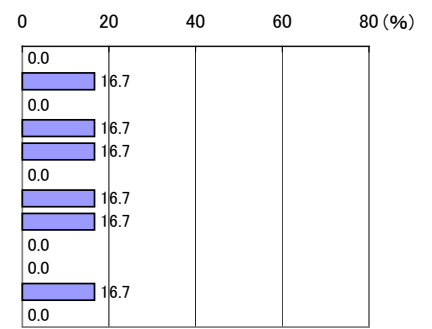
⑭ファミリーサポートセンター(家事支援は除く) <n=73>



⑮一時的な託児 <n=139>

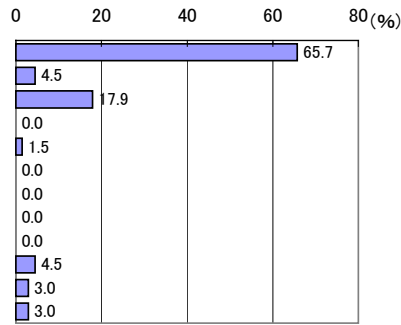


⑯宿泊を伴う託児 <n=6>

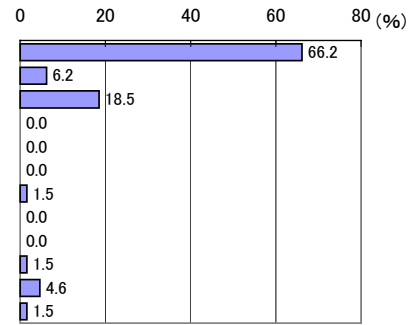


<各保育サービス等の利用希望理由(2)>

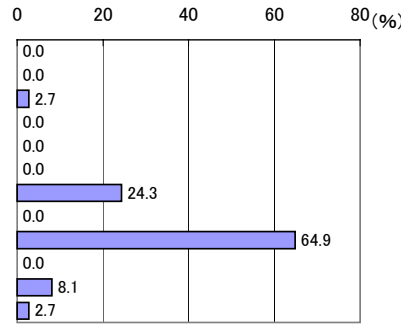
⑪病児保育 <n=67>



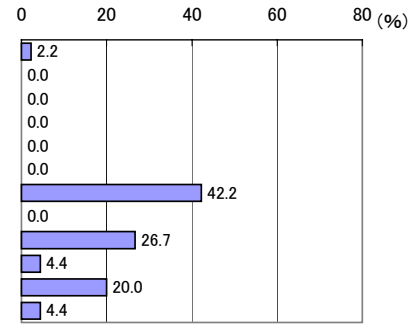
⑩病後児保育 <n=65>



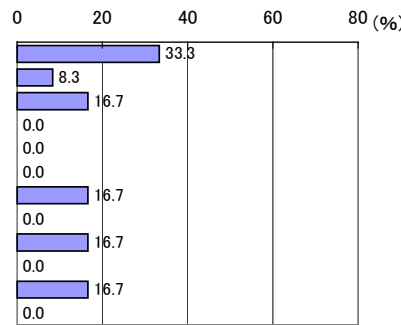
⑨つどいの広場 <n=37>



⑫子育て支援センター <n=45>

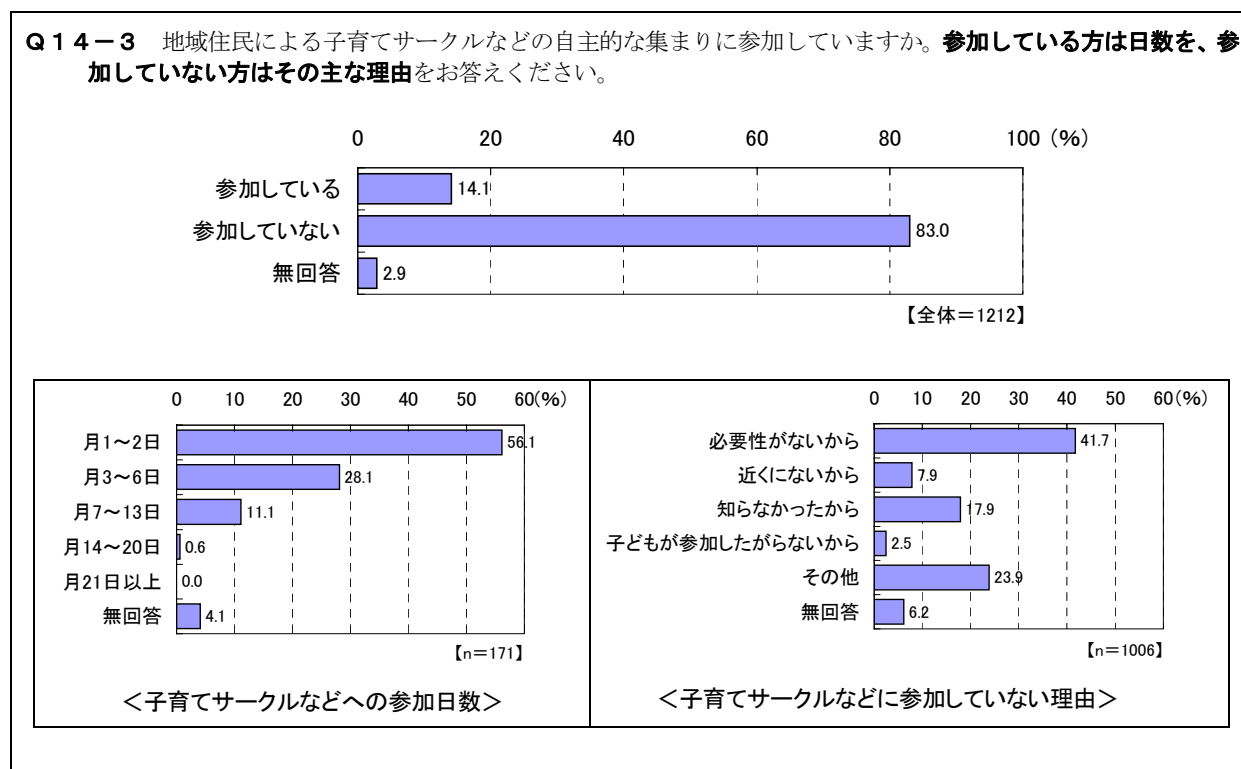


21その他 <n=12>



<各保育サービス等の利用希望理由(3)>

4.15 子育てサークルなどへの参加の有無



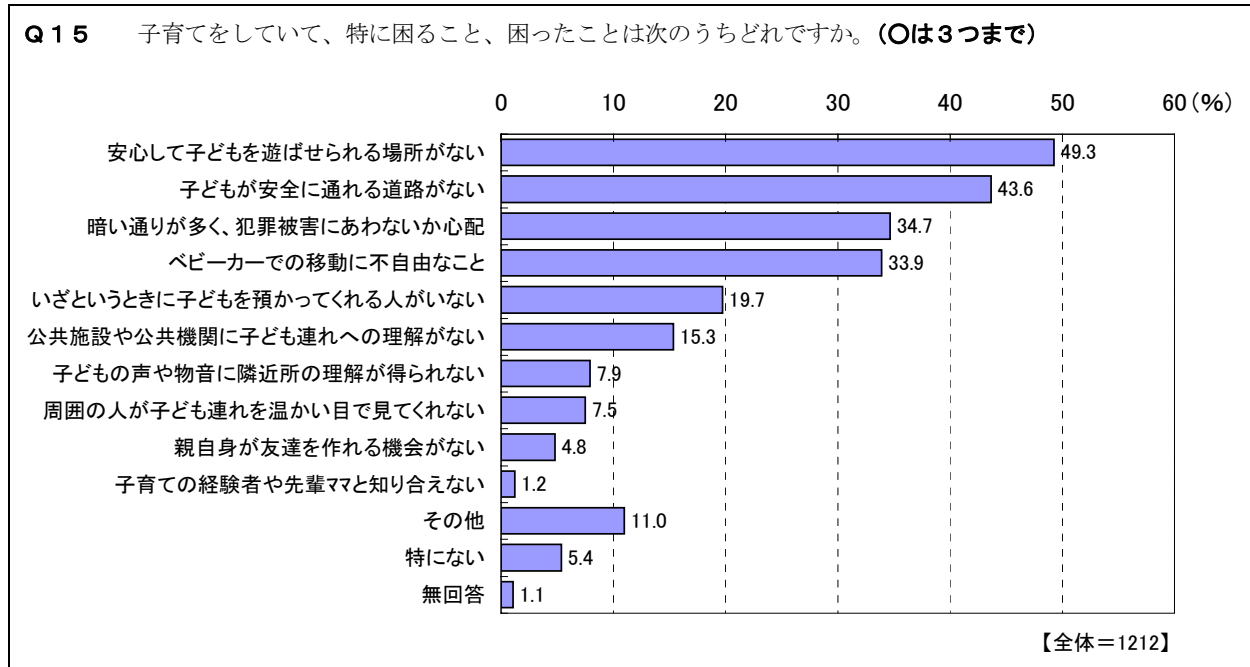
地域住民による子育てサークルなどの自主的な集まりに「参加している」は 14.1%、「参加していない」は 83.0%となった。

参加している回答者の参加日数は「月 1~2 日」(56.1%) が最も多く、「月 3~6 日」(28.1%)、「月 7~13 日」(11.1%) の順となった。

参加していない回答者のその理由としては、「必要性がないから」(41.7%) が最も多く、「知らなかったから」(17.9%)、「近くにないから」(7.9%) と続いている。

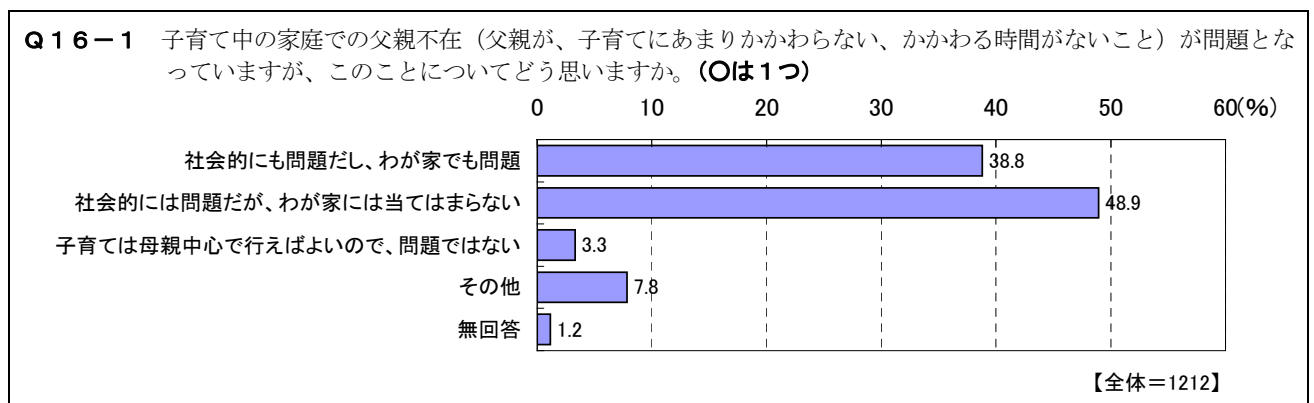
第5章 まちづくりや職場環境など幅広い子育ての環境や社会全体としての次世代育成支援（子育て支援）のあり方について

5.1 子育てをしていて特に困ること、困ったこと



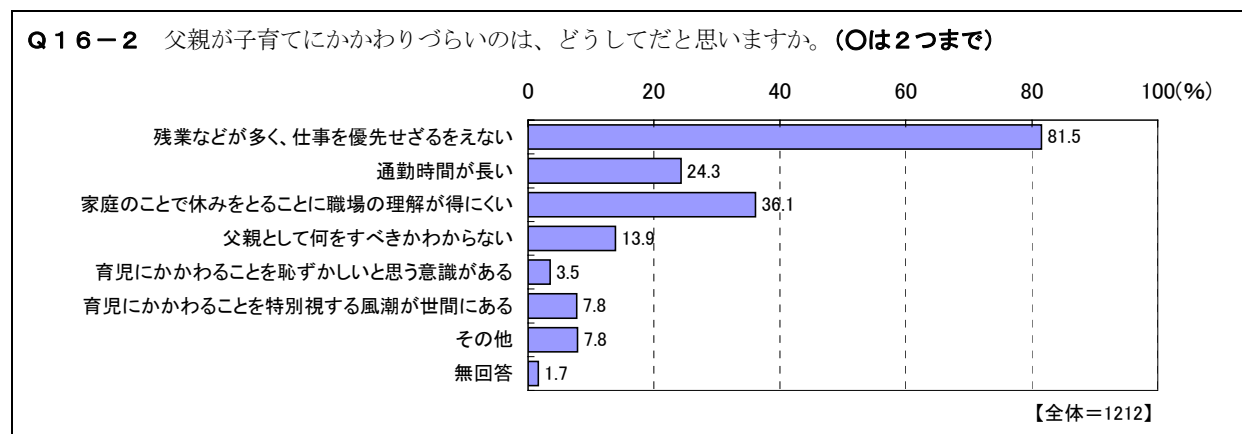
子育てに際して、特に困ること、困ったことでは、「安心して子どもを遊ばせられる場所がない」（49.3%）が最も多く、以下、「子どもが安全に通れる道路がない」（43.6%）、「暗い通りが多く、犯罪被害にあわないか心配」（34.7%）、「ベビーカーでの移動に不自由なこと」（33.9%）と続き、回答者の3割以上は、子どもの遊び場所や道路、あるいはベビーカーでの移動時の障害など屋外空間における安心・安全面に苦慮していることがわかる。

5.2 子育て中の家庭での父親不在について



父親不在の問題について、「社会的には問題だが、わが家にはあてはまらない」（48.9%）と考える回答者が最も多い結果となった。次いで「社会的にも問題だし、わが家でも問題」（38.8%）となり、「子育ては母親中心で行えばよいので問題ではない」（3.3%）は少ない割合であった。

5.3 父親が子育てに関わりづらい理由



父親が子育てに関わりづらい理由は、「残業などが多く、仕事を優先せざるをえない」(81.5%)が最も多く、次いで「家庭のことで休みをとることに職場の理解が得にくい」(36.1%)、「通勤時間が長い」(24.3%)、「父親として何をすべきかわからない」(13.9%)と続いている。